岡山県埋蔵文化財発掘調査報告27

寒風古窯址群

1978年3月

岡山県教育委員会

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告27

寒風古窯址群

1978年3月

岡山県教育委員会

序

古代備前の国は須恵器生産地の一つとして知られ，平城京からもその製品が出土しています。

今回調査した寒風古窯址は，古くから学界において注目された窯址であります。古窯址が所在する丘陵一帯は最近開発計画もあり，その保存策をたてるため，窯址の分布状況，規模，工房址などについて調査を実施いたしました。調査は，磁場の変化から窯址の位置を調べ，一部トレンチで確認する方法をとりました。また，従来出土して保管されている遺物についても掲載いたしました。

調査にあたっては，文化庁，奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター，牛窓町教育委員会をはじめ，関係学識経験者各位から御支援と御協力を得ました。さらに，心よく調査の承諾をいただいた地元地権者及び調査に従事された方々に対し，あわせてこの機会に厚くお礼申し上げます。

昭和５３年３月

岡山県教育委員会

教育長　小野啓三

例　　言

1. 本調査報告書は岡山県教育委員会が国庫補助を受け「寒風古窯址群緊急調査委員会」に調査を委託し，その報告にもとづいた邑久郡牛窓町長浜・寒風（さぶかぜ）古窯址群の調査概要である。
2. 調査は寒風古窯址群緊急調査団が担当し，昭和53年1月13日～3月20日にかけて実施した。
3. 調査の実施に際しては地元地権者ならびに国塩，粟利郷両部落の方々のご協力をえた。
   また牛窓町教育委員会事務局の職員各位，特に高橋重夫氏には連絡調整等諸事お世話になった。
4. 調査にあたっては，文化庁　水野正好，稲田孝司　両氏の現地指導を得，多大な御助言をいただいた。さらに地元研究者諸氏の現地視察と助言を頂いた。
   又，磁気探査については，奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターの職員各位の参加と協力を頂いた。
5. 報告書に掲載した邑久古窯址群分布地図及び一覧表は調査員である時実和一，山磨康平が作成した。
   分布図作成にあたっては備前市，長船町，邑久町，牛窓町の各教育委員会の協力を得た。
6. この報告書の作成は調査団の協力を得，主に調査を担当した山磨康平が担い，Ⅱ－第2章磁気探査結果については西村　康が担った。
   なお，現地調査，報告書作成にあたっては文化課職員諸氏の多大な協力を得た。
7. Ⅱ－第3章遺物の項に掲載した須恵器は時実氏の多年にわたる寒風古窯址の調査と研究に基づく採集品のうち，吉備考古館，牛窓町民俗資料館に展示保管されているものの一部である。
   須恵器の実測にあたり，便宜をはかって頂いた山手村教育委員会，遺物の借用について多大のご協力を頂いた吉備考古館館長　宮岡清見氏さらに資料掲載の承諾を頂いた時実氏に記して謝意を表したい。
   なお，遺物の実測については主に宇垣国雅，古屋野桂子　両名の協力を得た。浄書については平井　勝，写真撮影については井上　弘，両氏の援助を受けた。
8. 折込みの分布地図は建設省国土地理院長の承認を得て同院発行の25,000分の1地形図を複製したものである。
   （承認番号）　昭53中複，第88号
9. 本書に用いた標高は，すべて海抜高で方位はすべて磁北である。

目　　次

序

例　言

寒風古窯址群緊急調査委員会会則

Ⅰ　調査の契機と経過 …… 1

Ⅱ　立地と邑久古窯址群の概観 …… 5

Ⅲ　調査の概要 …… 11

第1章　分布調査結果 …… 11

第2章　磁気探査結果 …… 14

第3章　トレンチ調査結果 …… 23

第4章　出土遺物 …… 30

まとめにかえて …… 52

挿　図　目　次

第　1　図　寒風陶芸の里構想図 …… 4

第　2　図　邑久古窯址群位置図 …… 5

第　3　図　邑久古窯址群分布図 …… 折込み

第　4　図　寒風古窯址群周辺分布図 …… 13

第　5　図　寒風古窯址群磁気測定範囲 …… 14

第　6　図　寒風池東地区探査結果図示範囲 …… 17

第　7　図　1・2号窯址地点測定図 …… 18

第　8　図　3号窯址地点・A地点測定図 …… 19

第　9　図　B地点測定図 …… 20

第　10　図　磁気探査風景 …… 22

第　11　図　遺構配置図 …… 24

第　12　図　第1・13トレンチ実測図（1－Ⅰ号窯址）…… 25

第　13　図　第2トレンチ実測図　（1－Ⅱ号窯址）…… 26

第 14 図　第3トレンチ断面図　（1－Ⅰ号窯址灰原）…… 27
第 15 図　第4トレンチ実測図　（竪穴遺構1・4）…… 28
第 16 図　第4トレンチ実測図　（竪穴遺構2・3，溝状遺構）…… 29
第 17 図　1号窯址灰原出土遺物1 …… 32
第 18 図　1号窯址灰原出土遺物2 …… 33
第 19 図　1号窯址灰原出土遺物3 …… 34
第 20 図　1号窯址灰原出土遺物4 …… 35
第 21 図　1号窯址灰原出土遺物5 …… 36
第 22 図　1号窯址灰原出土遺物6 …… 37
第 23 図　1号窯址灰原出土遺物7 …… 38
第 24 図　2号窯址灰原出土遺物1 …… 39
第 25 図　2号窯址灰原出土遺物2 …… 40
第 26 図　2号窯址灰原出土遺物3 …… 41

表　目　次

表 1　調査日程表 …… 2
表 2　邑久古窯址群分布一覧表 …… 7
表 3　寒風古窯址番号対照表 …… 12
表 4　寒風古窯址群磁気測定値表 …… 20
表 5　古窯址変遷表 …… 31
表 6　出土遺物一覧表 …… 42

図　版　目　次

図版 1　寒風古窯址群周辺航空写真

図版 2 ―(1)　窯址群遠景　南西から

図版 2 ―(2)　窯址群遠景　西から

図版 3 ―(1)　1 号窯址遠景　西から

図版 3 ―(2)　トレンチ調査区遠景　南西から

図版 4 ―(1)　3 号窯址全景　南から

図版 4 ―(2)　3 号窯址遠景　南から

図版 5 ―(1)　第 1 ・ 2 トレンチ全景　北から

図版 5 ―(2)　第 1 トレンチ・溝状遺構上面遺物出土状況　北から

図版 6 ―(1)　第13トレンチ　1 ― Ⅰ 号窯址　南から

図版 6 ―(2)　第13トレンチ　1 ― Ⅰ 号窯址断面　西から

図版 7 ―(1)　第 2 トレンチ　1 ― Ⅱ 号窯址全景　南から

図版 7 ―(2)　第 2 トレンチ　1 ― Ⅱ 号窯址断面　西から

図版 8 ―(1)　第 3 トレンチ全景　南から

図版 8 ―(2)　第 3 トレンチ灰原土層断面　南西から

図版 9 ―(1)　第 4 トレンチ竪穴遺構 1 全景　南から

図版 9 ―(2)　第 4 トレンチ竪穴遺構床面出土粘土塊　西から

図版10 ―(1)　第 4 トレンチ竪穴遺構 2 ・溝状遺構 1　北から

図版10 ―(2)　第 4 トレンチ全景 (手前竪穴遺構 3)　北から

図版11 ―(1)　第 4 トレンチ竪穴遺構 3 ・溝状遺構 2　南から

図版11 ―(2)　第 4 トレンチ竪穴遺構 4　西から

図版12　1 号窯址灰原出土遺物(1)

図版13　1 号窯址灰原出土遺物(2)

図版14　2 号窯址灰原出土遺物

寒風古窯址群緊急調査委員会会則

（設　　置）

第１条　寒風古窯址群緊急調査を実施するため，寒風古窯址群緊急調査委員会（以下「委員会」という）を設置する。

（目　　的）

第２条　委員会は，寒風古窯址群等の調査を行い，その保存と活用方法等を研究することを目的とする。

（事　　業）

第３条　委員会は，前条の目的を達成するため，次の事業を行う。

(1)　寒風古窯址群等の文化財の調査研究および保存方法に関すること。

(2)　その他，目的を達成するために必要な事業。

（組　　織）

第４条　委員会の委員は，次の各号に掲げる者のうちから岡山県教育委員会教育長が委嘱する。

(1)　学識経験者

(2)　牛窓町議会議員

(3)　牛窓町文化財保護委員

(4)　関係行政機関職員

(5)　調査予定区域関係者

（委 員 長）

第５条　委員会に，次のとおり委員長および副委員長を置く。

(1)　委 員 長　　１名

(2)　副委員長　　２名

2.　委員長は，岡山県教育委員会教育長をもってあてる。

副委員長は委員のうちから委員長が委嘱する。

3.　委員長は，委員会を代表し会務を掌理する。

4.　副委員長は委員長を補佐し，委員長に事故あるときは，あらかじめ委員長が指名する副委員長がその職務を代理する。

（任　　期）

第６条　委員の任期は，調査が完了するまでとする。ただし，それぞれの機関等の代表たる委員は，その役職に存る期間に限るものとする。

（会　　議）

第７条　委員会は，委員長が招集する。

2　委員会は，次の事項について審議する。

(1)　会則の制度および改廃並びに予算に関すること。

(2)　調査保存および活用方法等の基本方針に関すること。

(3)　その他，重要な事項。

（事務局）

第8条　委員会の事務を処理するため，岡山県教育庁文化課に事務局を置く。

2　事務局員は，委員長が委嘱する。

（監　査）

第9条　委員会に会計監査を実施するために監事を置き，その監事は，岡山県教育委員会教育長が委嘱する。

（調査団）

第10条　委員会に，調査とその他の事業を専門的に実施するため，調査団を置き，その調査員は岡山県教育委員会教育長が委嘱する。

2　調査団に，団長を置く。

（補　足）

第11条　この会則に定めるもののほか，委員会の運営に関して必要な事項は委員会が定める。

附　則

この会則は昭和52年12月25日から実施する。

Ⅰ　調査の契機と経過

調査の契機

岡山県政の地域開発計画の一つとして，東瀬戸内を中心とした大規模な東瀬戸内海洋レクリェーション都市計画（註１）が示されている。この計画の対象地域は岡山県東南部の備前市日生諸島から倉敷市鷲羽山周辺に至る東西約60km，面積88,000haにのぼる広大な地域にわたっている。そしてこの計画の地区別整備の方向の一つとして，邑久，牛窓，西大寺地区には，錦海塩田跡地を利用して，この地区の中核となる都市整備と塩田址背後の丘陵地域を窯址の保存をはじめ，陶芸，クラフトセンターなどの異色ある整備を行うことがかかげられている。

この基本計画に基き，塩田址背後の丘陵地に具体的な構想として「寒風陶芸の里」（註２）の整備が計画されている。この整備構想は，錦海塩田跡地を利用する中心都市となる地区と有機的な関連をもちつつ異色ある陶芸の里とすることをうたっている。さらにその整備の方向は，計画区域を陶芸区域，共同施設区域，古窯址保全区域の３ゾーンに区分し，寒風古窯址群の一部の保全をはかりつつ，陶芸家の創作活動とレクリェーション基地を兼ねた焼物の里とするものである。

今回の調査はこの様な開発計画の中で，国の重要遺跡にリストアップされている邑久古窯址群中，最も著名な寒風古窯址群の基数の確認，範囲，ならびに窯址と直接関連を持つ周辺の須恵器散布地の調査を行い，古窯址群の性格を立体的に把握し，国指定史跡の申請のための資料としようとするものである。

調　査　経　過

昭和53年

１月13日	牛窓町中央公民館において寒風古窯址群緊急調査委員会の発足，ならびに第１回の調査団会議を持ち，調査計画及び調査スケジュールの検討を行う。
１月14日～20日	この間調査対象地区約26万m^2の実施踏査を行い遺跡の状況を把握する。 なお，分布調査と並行し磁気調査対象地区の下草刈りを行う。（～28日）
１月25日	第２回の調査団会議を寒風古窯址現地において持つ。分布調査の結果をもとに磁気調査の実施について協議を行う。
１月26～２月２日	２台のマグネットメーターを使用し，磁気調査を行う。範囲は分布調査結果から１～３号窯址，ならびに寒風池東散布地の全面と笹場池散布地，寒風池北散布地の計３か所を対象とする。
２月10日	第３回の調査団会議を岡山市内において持つ。磁気調査の中間報告と今後の調査方針について協議を行う。

2月13日　文化庁稲田技官現地視察

2月14日～28日　この間，邑久古窯址群の実施踏査と牛窓町民俗資料館，吉備考古館等に保管の時実氏採集品の実測作業を行う。

3月3日　第4回の調査団会議を岡山市内において持つ。寒風池東散布地を中心とするトレンチ調査について検討を行う。

3月4日～5日　発掘調査器材の運搬と，トレンチの設定を行う。

3月6日　トレンチ調査を開始する。

3月7日　文化庁水野技官現地視察

3月8日～14日　第1号窯址地点から寒風池東散布地へと調査を進める。

3月15日　第5回の調査団会議を寒風古窯址現地において開く。トレンチ調査結果の検討と史跡指定範囲について検討を行う。午後現地見学会を開く。

3月16日～19日　実測作業と補足調査を行う。また16日より調査終了トレンチの埋戻しを開始する。

3月20日　器材の運搬と補足調査を行う。調査終了。

註1　その目的は「明媚な風光に恵まれた瀬戸内海沿岸地域に，地域住民の理解と参加のもとに，地域特性を生かした未来志向型の海洋性レクリエーション都市を整備することにより，住みよい豊かな地域づくりと増大するレクリエーション需要に対する健全な活動の場の提供をはかろうとする」ものである。『東瀬戸内海洋レクリエーション都市基本計画』岡山県　昭和49年10月

註2　その整備は「古窯址の保存をはじめ，出土品の顕彰を行うほか，全国各地から誘致する優秀な陶芸家に対し，創作活動の場を提供するとともに，来訪する人びとに対し，焼物の試作と研究，鑑賞の場を提供することなどにより，地域における産業の振興と文化の発展に寄与しようとするものである。『寒風陶芸の里整備構想について』岡山県邑久郡牛窓町　昭和51年11月

表1　調　査　日　程　表

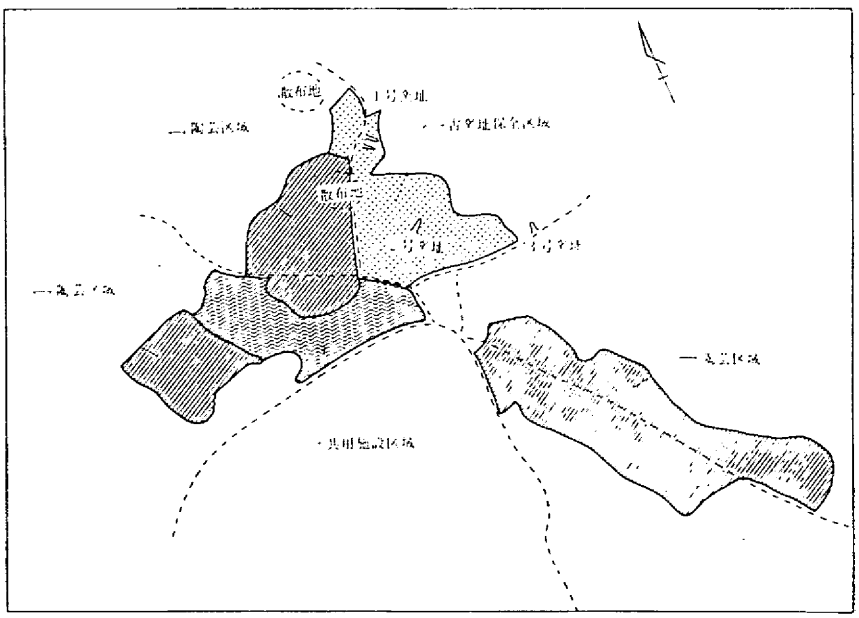
調査項目＼年月	52年12月	53年1月	53年2月	53年3月
調査準備	下旬			
分布調査		13　21		
磁気調査		25	2	
トレンチ調査				6　20
概報作成				15　31

寒風古窯址群緊急調査委員会

役名	氏名	所属
委員長	小野啓三	県教育委員会教育長
副委員長	新地勇	牛窓町長
〃	大熊立治	県文化財保護審議委員
委員	田中琢	埋蔵文化財センター研究指導部長
〃	鎌木義昌	県文化財保護審議委員
〃	水内昌康	〃
〃	近藤義郎	〃
〃	飛田真澄	県教育庁文化課長
〃	松本幸男	牛窓町教育委員会教育長
〃	福江剛	牛窓町議会議長
〃	竹内行成	牛窓町議会総務委員長
〃	岡義太郎	牛窓町文化財保護委員長
〃	小塩正照	国塩部落区長
〃	神宝真一	粟利郷部落区長
監事	松尾光男	牛窓町助役
〃	合内敏夫	牛窓町教育委員会 教育課長
事務局長	飛田真澄	県教育庁文化課文化課長
〃 次長	塩見篤	〃 課長補佐
	小川佳彦	〃 主幹
	光吉勝彦	〃 文化財二係長

調　　査　　団

役　　名	氏　　名	所　　属
調査団長	近藤義郎	県文化財保護審議委員
	鎌木義昌	〃
	水内昌康	〃
	西村　康	埋蔵文化財センター技官
	岩本圭輔	〃
	間壁忠彦	倉敷考古館長
	西川　宏	山陽学園教諭
	小野　昭	岡山大学助手
	時実和一	牛窓町文化財保護委員
	河本　清	県教育庁文化課 文化財保護主査
	葛原克人	〃　〃
	伊藤　晃	〃　文化財保護主事
	正岡睦夫	〃　〃
	山磨康平	〃　〃
	岡本寛久	〃　主事



第1図　寒風陶芸の里構想図

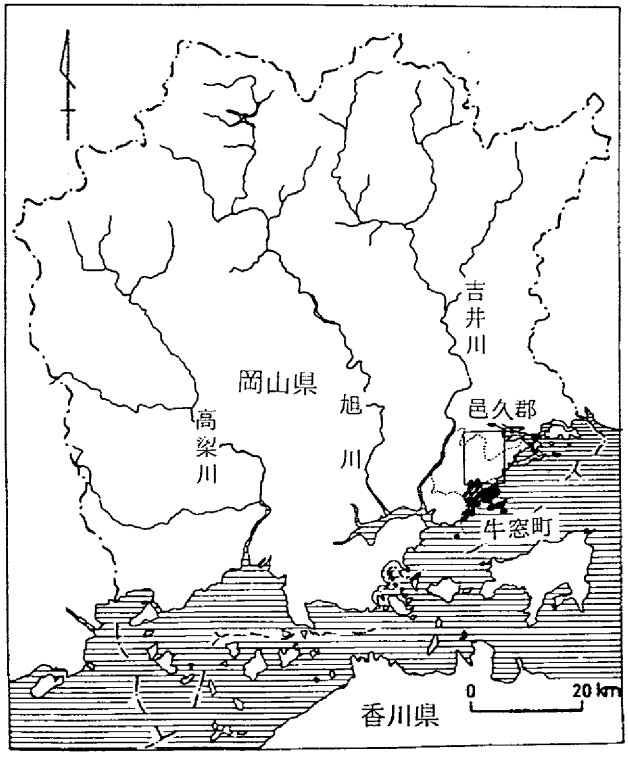
Ⅱ　立地と邑久古窯址群の概観

立　　地

邑久古窯址群の位置する岡山県邑久郡牛窓町は，岡山県の南東部の瀬戸内海に面した気候温暖な低丘陵地帯である。町内の中央には東西5㎞の小半島が東に突出し，その前面には前島，黒島，黄島等の島々が点在し，瀬戸内特有の多島美の景観をみせている。牛窓半島の背後は，現在では錦海湾をせき止めた大塩田の跡地が広がっている。この場所は前述したレクリェーション都市構想の中心都市が計画されているところでもある。この塩田跡北側は標高50～100 ｍを測る低丘陵が続いており，この丘陵の旧海岸線より北東に1.3㎞程の丘陵南～西斜面に，寒風古窯址群が立地している。

牛窓町は昭和29年，邑久郡牛窓町，鹿忍町，長浜村の3か町村が合併し，さらに昭和30年に大宮村の一部の編入を行い，現在に至っている。（註1）

町内における著名な遺跡は，牛窓半島の南面に広がる黄島，黒島に縄文時代の貝塚遺跡が知られており，牛窓湾沿岸と黒島には，牛窓湾をかこんで5基の前方後円墳が立地し，瀬戸内海航路の拠点に占地する海辺首長墓群が注目されてきた。（註2）寒風古窯址群に代表される古窯址は，同一丘陵に数か所の古窯址の存在が知られており，また，半島先端の師楽には，備讃瀬戸地方古墳時代製塩土器（別名師楽式土器）の名祖遺跡が所在し，その他の沿岸にも製塩遺跡が多く知られている。さらに牛窓半島の丘陵上には，60基にのぼる古墳時代後期の横穴式石室墳が築造されるなど，農耕に不適なこの丘陵に古墳時代から奈良時代にかけて遺跡が急激に増大しており，特異な地域的特色を現わしている。



第2図　邑久古窯址群位置図

邑久古窯址群の概観

邑久古窯址群は岡山県の南東部に位置し，古墳時代から奈良，平安時代にわたる県下最大の古窯址群である。窯址の分布は備前市と長船町の境に位置する西太平山の南山麓付近

を北限とし，牛窓町の錦海湾を南限とする南北9㎞，東西8㎞の範囲で，備前市，邑久郡邑久町，同長船町，同牛窓町の4市町村にわたっている。

邑久古窯址の分布状況は現在80か所程が確認でき，このうち最古の窯址とみられているものが長船町桂山南山麓から西須恵に所在する窯址中に認められ6世紀中頃に位置すると考えられている。(註3)その後7世紀前半には広高山南麓から寒風古窯址群の位置する南の丘陵上へと広がり，さらに邑久町福谷から備前市佐山の低丘陵へと拡大していく。平安時代になると佐山の低丘陵から北上し，磯上の東・西大平山の山麓に築かれるようになり，初期備前焼窯址へと発展していく。

第3図の分布図に記載したこれら80か所程の窯址を地形等から概略的に6区分して以下概要を述べてみる。

桂山山麓（長船町）　標高244mの桂山南麓に須恵器散布地を含めて8か所程の窯址が確認されている。このうち亀ケ原窯址（No.38）は略測が行われ，全長6.5mを測る地下式の登窯であることが報告されている。（註4）

広高山丘陵（長船町・邑久町）　広高山の南北山麓には現在24か所程確認されている。枝状に幾本もの尾根が延びている南側には各谷ごとに窯址が確認されており密度が高い。

錦海湾北低丘陵（邑久町，牛窓町）　邑久町本庄から牛窓町長浜，さらに邑久町尻海にかけての標高70～100mの起伏に富んだ低丘陵に現在17か所程確認されている。邑久古窯址群の南端に位置し，寒風古窯址群を含む。

福谷地区（邑久町）　備前市佐山との境界に位置する龍王山から玉葛山の南山麓に現在10か所程確認されている。なお玉葛山の南斜面にも窯址が存在する可能性がある。

佐山地区（備前市）　龍王山から玉葛山の北山麓および北側の丘陵に現在18か所程確認されている。特に龍王山北山麓の東西1㎞の間には各谷ごとに確認されており密度が高い。

磯上地区（長船町・備前市）　東・西太平山の南山麓から東に延びる丘陵にかけて8か所程確認されている。この地区は初期備前焼窯址も認められ，また瓦窯址も存在する。

註1　岡山県『岡山県市町村合併誌』総編 1970年3月
註2　近藤義郎「牛窓湾をめぐる古墳と古墳群」『私たちの考古学』10　1956年9月
註3　西川宏「備前の古窯」『古代の日本』4　1970年3月
註4　近藤義郎「岡山県邑久郡美和村の一窯址」『日本考古学年報』3　1955年

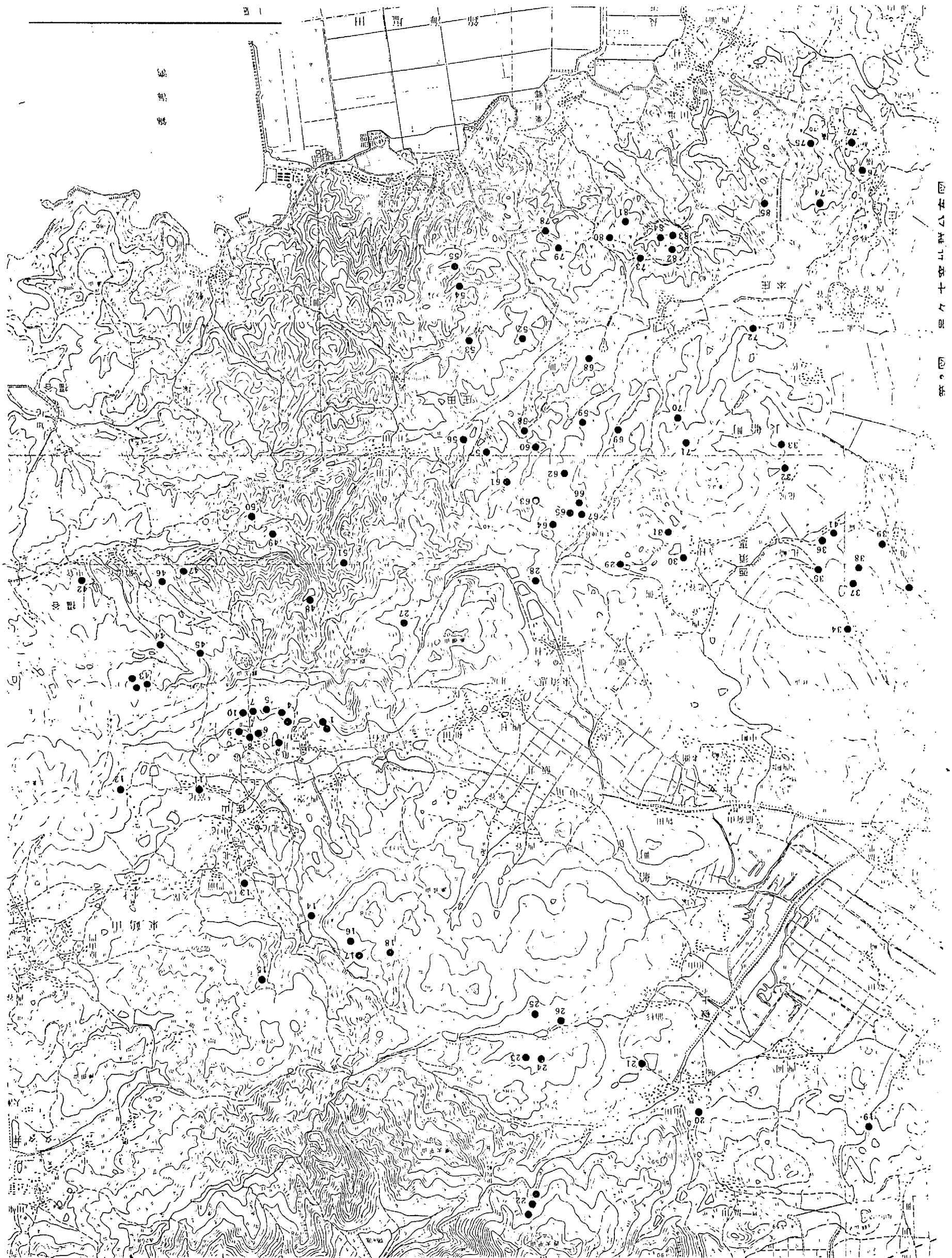


表2　邑久古窯址群分布一覧表

番号	名称	所在地	時代	地目	立地	遺跡概況	出土品
備前市							
1	新池（山外地）	佐山　亀井戸	奈良	山林	谷斜面	新池の南東岸から谷にかけて2基	須恵器，窯壁片
2	根切池谷	〃　〃	〃	池，山林	谷	根切池および東の小溜池内より土器片	〃　〃
3	大城池（古池）	〃　大城池	〃	池	谷斜面	古池の中に灰原露出	〃
4	大城谷	〃　大城谷		畑	丘陵斜面	林道より北のブドウ畑中	〃，窯壁片
5	長ぶろ	〃		〃	〃	林道より南のブドウ畑中2基	〃
6	城ヶ谷池（上池）	〃	奈良	池	谷	東岸南部よりに土器片	〃，窯壁片
7	城ヶ谷	〃		山林，道	丘陵斜面	林道崖面に灰原露出	〃
8	赤池内	〃　赤池		山林	〃	赤池の南の松林の付近に窯壁破片	〃，窯壁片
9	赤池	〃　赤池		池	〃	赤池の中に灰原露出，東～南岸の範囲	〃
10	赤池谷	〃　赤池谷		山林	谷	赤池上方の小溜池に土器片散布	〃，窯壁片
11	富尾	〃　富尾	奈良	宅地	丘陵斜面	重成氏宅の背後の崖に窯が露出	〃
12	東山（かまがた）	〃	平安	山林	谷	釜方池の上方の谷	〃，窯壁片
13	小屋谷	〃　大北		〃	丘陵斜面		〃　〃
14	おうろぐち	〃		山林，畑	〃	おうろぐち池の荒手の下	〃　〃
15	高良谷	〃	平安	山林	谷		〃
16	元山	〃	〃	〃	丘陵斜面		〃
17	宝蔵池（光明見）	〃	〃	〃	〃	窯の本体の一部が露出	〃
18	狸山	〃	〃	〃	丘陵	土取りで破壊	〃，瓦
19	宝万坂	新庄	〃	山林，道	丘陵斜面	新庄より香登に越える峠道	〃
長船町							
20	宮峠	磯上，山田	平安	山林，道	丘陵斜面	磯上より福田に越える峠道	須恵器

番号	名称	所在地	時代	地目	立地	遺跡概況	出土品
21	生砂	磯上，山田	奈良	山林，墓地畑	丘陵端部	生砂池の北東部	須恵器，瓦，窯壁片
22	一ノ谷	〃 〃	奈良～平安	山林	〃	西太平山の南斜面3基	須恵器
23	高山1	〃 油杉	平安	牧場	丘陵	浅い谷に面した丘陵上	〃，瓦
24	高山2	〃 〃	〃	〃	丘陵斜面	23より西に谷一つへだてた南斜面	〃 〃
25	亀ヶ原	〃 〃	〃	山林	〃	標高219mの堂法山の北斜面	〃
26	赤井谷	〃 〃	〃	牧場，宅地	〃	宅地	〃，瓦
27	丸山（しょうぶ谷）	東須恵		山林	谷	三池の谷奥	〃，窯壁片
28	中池西	〃	飛鳥～奈良	〃	丘陵斜面	中池の西の斜面	〃 〃
29	擂鉢	西須恵		〃	谷	擂鉢池の上手	〃
30	北谷	〃	飛鳥～奈良	山林，墓地	丘陵斜面	墓地に灰原露出	〃，窯壁片
31	どうかん	〃		山林	丘陵平担部	蓮池の南側	〃
32	青木（花尻1）	〃 花尻	飛鳥～奈良	〃	丘陵端部	佐府池の堤の西	〃，窯壁片
33	花尻南（花尻2）	〃 〃		〃	丘陵斜面	山道に灰原露出	〃 〃
34	桂山林道峠	〃	飛鳥～奈良	山林，道	丘陵尾根	林道崖面に灰原露出	〃 〃
35	比丘尼岩下	〃	〃	〃	丘陵斜面	林道に窯本体露出	〃 〃
36	亥子田谷	〃		山林，田	〃	丘陵端部より田にかけて須恵器散布	〃
37	亥子田谷池	〃	古墳	山林	〃	亥子田谷の池尻に須恵器散布	〃
38	亀ヶ原	〃 亀ヶ原		〃	〃	窯址本体が露出	〃
39	亀ヶ原西	〃 〃		〃	〃		
40	亀ヶ原北	〃 〃		山林，田	〃	亀ヶ原北方の小池付近に遺物散布	須恵器，窯壁片
邑久町							
41	尻無	西須恵尻無		畑	丘陵斜面		須恵器
42	大谷	福谷中倉	平安	山林，畑	〃	西面する急傾斜地に窯体露出	〃
43	曇見谷	〃 曇見谷	奈良～平安	〃 〃	〃	同一谷に3基	〃，窯壁片

番号	名称	所在地	時代	地目	立地	遺跡概況	出土品
44	小馬様谷	福谷小馬様谷	平安	畑、道路	丘陵斜面	林道崖面に窯体露出	須恵器，窯壁片
45	花ヶ谷	〃 花ヶ谷		畑	〃	120～130mの高地で眺望がよい。	〃
46	谷田	〃 鍛冶谷		〃	〃		〃，窯壁片
47	西長尾谷	〃 西長尾谷	平安	〃	〃	南面する急傾斜地，開墾時に窯址出土	〃
48	奥池	〃		山林，池	谷斜面		〃
49	庄田谷	〃	奈良	畑	丘陵尾根	丘陵のやや平坦面	〃
50	湯通	〃	〃	〃	丘陵端部	道路崖面に窯址露出	〃
51	朝井谷	庄田朝井谷	平安	山林	丘陵斜面	朝井谷奥の南斜面	〃，窯壁片
52	国木坂	〃 国木坂		山林，田	谷		〃
53	奥三谷	〃	奈良	山林，道路田	丘陵端部	道路崖面に窯址露出	〃，窯壁片
54	奥更谷	〃		道路	丘陵斜面	東備西播道で調査	〃　〃
55	更谷	〃	飛鳥～奈良	山林、畑	〃	広い範囲に須恵器出土	〃　〃
56	墓山(西墓)	〃		墓	〃	山道に窯址露出	〃　〃
57	びしょ びしょ谷	〃		山林、畑	〃		〃　〃
58	工田	〃		〃	〃	かなり広範囲から須恵器出土	〃　〃
59	さざらし 中池	〃		山林	〃	中池堤の西方	〃
60	さざらし 奥池	〃		山林，池	池の淵	一部池に水没	〃，窯壁片
61	さざらし	〃		山林	谷の東斜面		〃
62	ばかぜ	〃		〃	丘陵斜面		〃
63	天堤	〃		〃	〃	良質の須恵器出土	〃
64	新山 (1)	〃		〃	〃	S36年秋の大雨で灰原流失埋没	〃
65	〃 (2)	〃	奈良	〃	谷	S36年秋の大雨で窯址流失	〃
66	〃 (3)	〃		〃	丘陵斜面	山崩れにより窯址が現われている	〃
67	広高	〃	飛鳥	〃	〃	美和神社神門，下方の山腹，古くより知られた窯址	〃

番号	名称	所在地	時代	地目	立地	遺跡概況	出土品
68	新林（宮崎）	庄田	飛鳥～奈良	道路・山林	丘陵端部	東備西播道建設に伴い調査	須恵器，陶棺，鴟尾，窯址
69	構谷	〃		山林	丘陵斜面		〃
70	かんにゃくば	〃		〃	〃		〃
71	佐井田谷	本庄 佐井田谷	飛鳥～奈良	〃	谷奥	標高130～140mの斜面に遺物散布	〃 窯壁片
72	猪のかき	〃		〃	谷	前面を有料道路によりふさがれた小谷	〃
73	切明	庄田		山林・畑	丘陵尾根	かなり広範囲に遺物散布	須恵器，鴟尾，窯壁片
74	六池	本庄		山林	谷		〃
75	赤谷	〃		山林・池	〃	赤谷池普請のとき遺物が多量に出土	〃
76	横尾 1	〃		畑	丘陵斜面	宮内氏のブドウ畑	〃
77	〃 2	〃		道路	丘陵端部	静円寺裏山路傍，土取りにより消失	〃
牛窓町							
78	土橋	長浜	飛鳥～奈良	畑	丘陵斜面	かなり広範囲に土器片散布	須恵器，窯壁片
79	流尾	〃	〃	山林	〃	（78）の西方山腹	〃
80	平田	〃	〃	〃	谷		〃
81	かべら	〃	〃	〃	丘陵斜面		〃
82	寒風 1号	〃	〃	〃	〃	2基確認	須恵器，陶棺，鴟尾，塼
83	〃 2号	〃	〃	畑	〃	1基 〃	〃 〃
84	〃 3号	〃	〃	山林・田	〃	林道崖面に窯址露出1基	〃
85	吉市村（だんがめ山）	〃	〃	山林	〃		〃

Ⅲ 調査の概要

第1章 分布調査結果

日 時

昭和53年1月13日～1月20日

参加者

時実和一（町文化財保護委員），河本清，正岡睦夫，山磨康平，福田正継（県教委文化課職員）

調査の概要

分布調査は寒風古窯址3か所を中心とする約26万m^2（第4図実線の範囲内）を対象地区とし，実施踏査を行った。すでにこの地域は時実和一氏等による数十年にわたる詳細な分布調査から，3か所の窯址と5か所の散布地及び2基の古墳（横穴式石室）が確認されている。したがって，踏査はこれらの遺跡の再確認と現状の把握を第一とし，ついで周辺の踏査を行う方法をとり，約一週間にわたり全域の調査を終了した。

以下に各遺跡の概要を記述する。

寒風1号窯址　寒風池（上池）の東斜面に位置する。灰原は池の縁より上手の畑との間の雑木林中の30×20mの範囲に堆積が認められる。

窯址本体は，上手の畑の開墾時に2基確認されている。当時の踏査によると，2基ほぼ平行して位置し，そのうち南側の1基（1－Ⅱ号窯址）は，上手の雑木林との境の崖面に，煙道に近い部分が露出していたとのことである。北側の1基（1－Ⅰ号窯址）は，畑の中ほどでプランが終っていたらしい。

出土遺物は鴟尾，陶棺，大甕等の大形品を含み，須恵器の各器種が採集されている。なお吉備考古館，ならびに牛窓町民俗資料館に展示されている時実氏採集品中の「寒風5139」と地番が註記されているものがこれにあたる。

寒風2号窯址　1号窯址の南130mの浅い谷に面した丘陵南斜面に位置する。この地区は全て畑に開墾されており，灰原出土の須恵器は耕作時にかなり取り除かれ，畑の端に山積みされている。灰原の現状は最下段の畑に長さ40m×最大幅30mにわたり明確に認められる。

窯址本体は開墾以前には窯の段といわれ落込みの場所が確認されていた。現状でも下から2段目の畑の上手が浅くくぼんでいる。出土遺物は，鴟尾，陶棺を含み，須恵器各器種が採集されている。前述の両資料館に展示されている採集品中の「寒風5148」と地番が註記されているものがこれにあたる。

寒風3号窯址　2号窯址の南東60mの丘陵南斜面に位置する。林道工事により窯址が切断されており，山側の崖面に窯断面が露出している。上手の雑木林中をボーリングした結果では，崖面から5

m程焼土を確認している。須恵器片は，林道下方の雑木林，田の付近から若干採集しているのみで現状では灰原は露出していない。

笹葉池散布地　笹葉池の北側の丘陵斜面に位置する。開墾時に畑の下から3～4段目に須恵器片がかなり出土している。他にサヌカイトの散布も確認されている。今回の踏査では下草が茂っており，須恵器1点を採集できたのみである。

寒風池北散布地　寒風池（上池）の北側の南斜面に位置する。池の淵に須恵器の散布が認められ，また法面に弥生式土器の包含層が露出している。これらの遺物の散布状況から上手の幅30×長40mの緩斜面には確実に弥生時代の遺跡の存在が考えられる。また須恵器の散布状況からは窯址灰原の可能性もある。

寒風池東散布地　1号窯址と2号窯址の間の丘陵尾根から南斜面に位置する。この散布地の中央を1号窯址に通じる山道が通過しており，この両側の畑にかなりの須恵器片の散布が認められる。灰原の可能性も考えられるが，炭，窯壁は認められない。

寒風東散布地　3号窯址より北東100mの小舌状尾根上に位置し，サヌカイトが採集されている。今回の踏査では遺物の採集はできなかった。

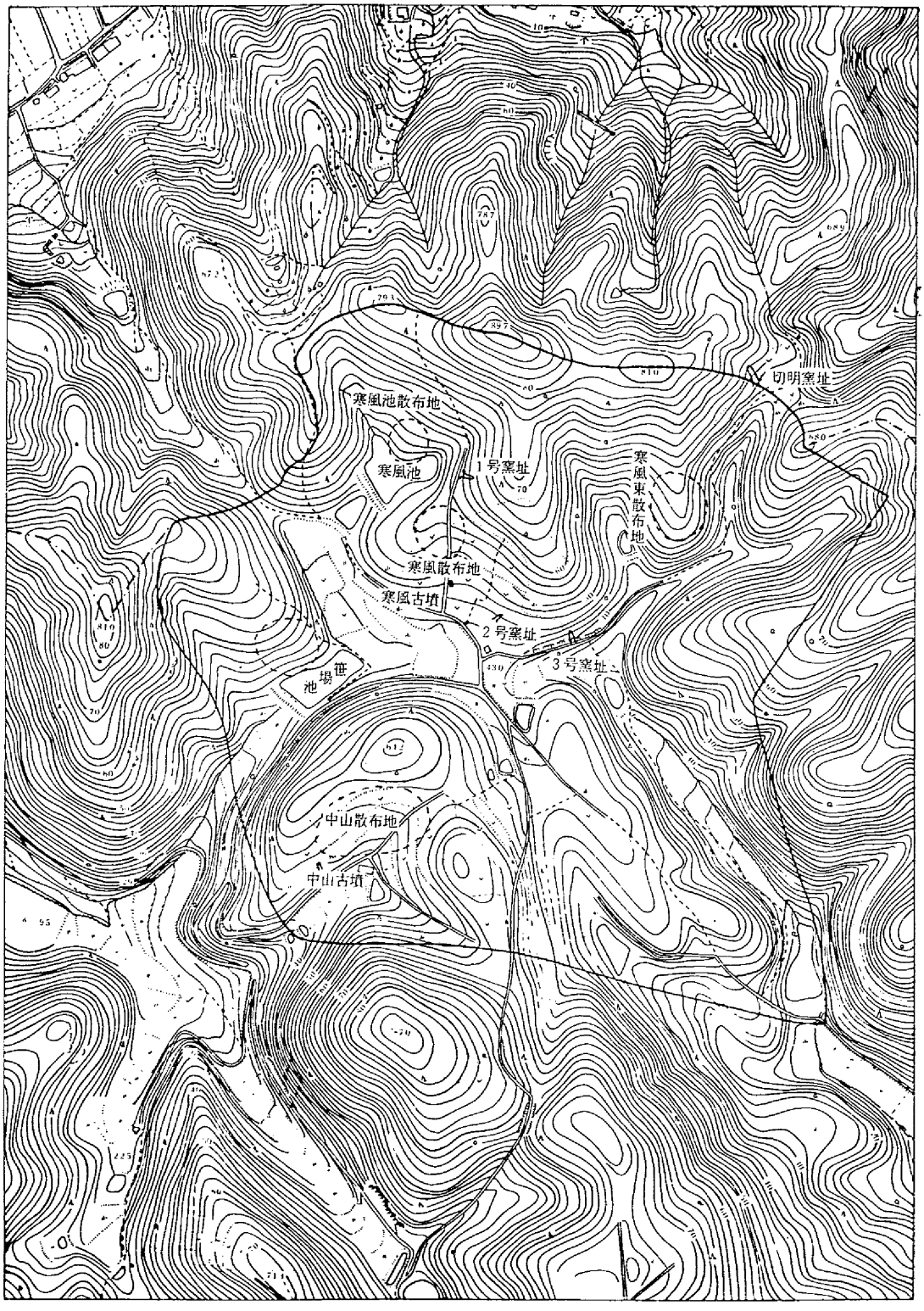
中山散布地　寒風窯址群の位置する丘陵から谷をへだてた南の低丘陵の南斜面に，サヌカイト等の散布が確認されている。今回の踏査ではサヌカイト片数点を採集したのみである。

寒風古墳　2号窯址の西40mに位置し，1号窯址に通じる山道に接している横穴式石室墳である。石室内床面に須恵器片を敷きつめ，須恵質陶棺を納めていた。現状は全て畑になり，わずかに石材が一部露出しているのみである。

中山古墳　前述の中山散布地の南斜面に位置する横穴式石室墳で，寒風古墳と同様に須恵質陶棺が出土している。現状では，両側壁の一部と奥壁が残存しているのみである。

表3　寒風古窯址番号対照表

本報告書	西川氏番号
1－Ⅰ号窯址 1－Ⅱ号窯址	3号窯址
2号窯址	1号窯址 2号窯址
3号窯址	4号窯址



第4図　寒風古窯址群周辺分布図　1:5,000

第2章　磁気探査結果

調査期間

昭和53年1月26日～2月2日

参加者

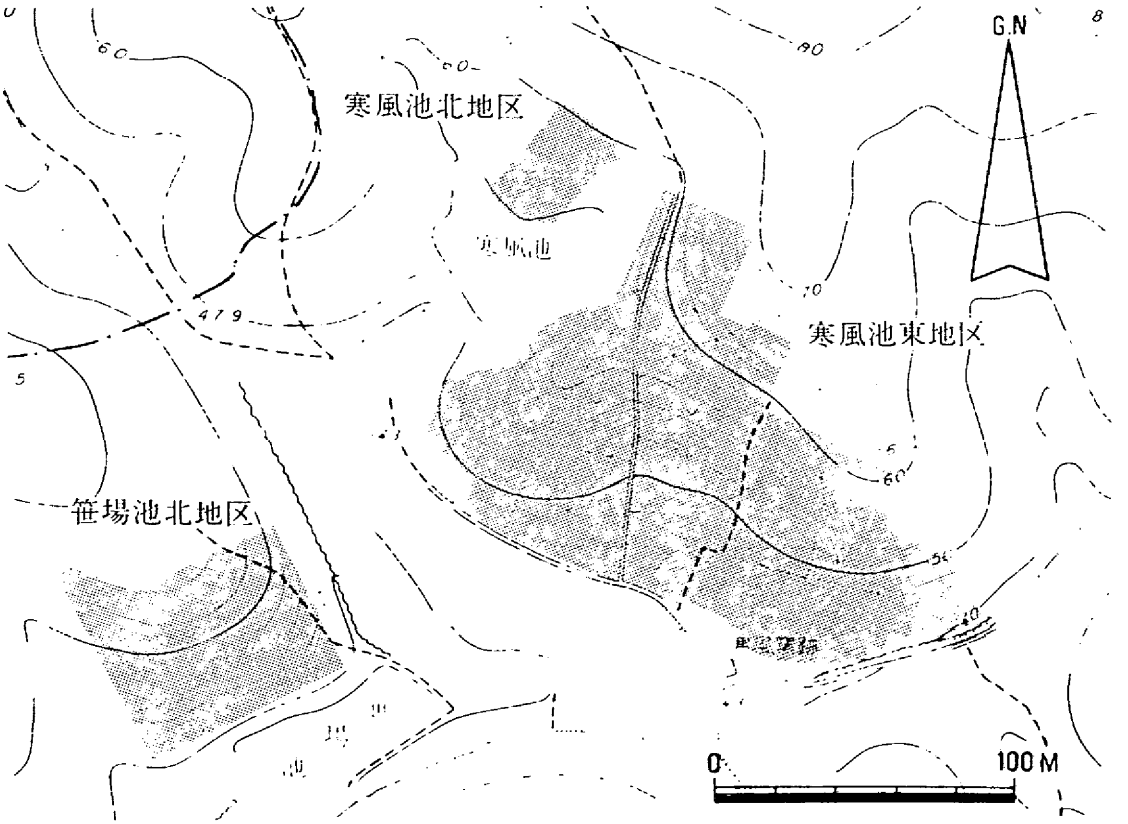
西村　康，岩本圭輔，山本忠尚，田辺征夫，岩本正二（奈良国立文化財研究所）

小野　昭（岡山大学）

河本　清，伊藤　晃，山磨康平，福田正継（岡山県教育委員会）

調査範囲（第5図）

磁気測定調査をおこなったのは，第5図に示した範囲で，笹場池北，寒風池北，寒風池東の三地区に大別している。これらの地域は，従来から窯跡の存在は知られていても，窯体の正確な位置や規模の不明な地点と，須恵器片の散布地であり，磁気探査に先だって実施された分布調査結果をもとに決



第5図　寒風古窯址群磁気測定範囲

定したものである。

測定は測定区全体に2m間隔のグリッドを設定しておこなった。各々の設定は地形にあわせて等高線にそった測線になるように考慮した。また測点の呼称は，南北はアルファベットを南からAA~AY，BA~BYのように順次組みあわせ，東西は算用数字によって東から西へ数が増加するように表わした。測定点数は，笹場池北地区1107，寒風池北地区231，寒風池東地区3385の合計4700点余りである。

探査方法

地下遺構は強弱の差はあっても，地球の磁場に影響を与えている。特に窯跡のように高熱を受けた遺構は，熱残留磁気を帯びているため，強い磁気異常を示すことが知られている。この磁気異常を測定することによって，遺構を発見するのが磁気探査法である。

今回の探査に使用した機器は，米国ジオメトリクス社製プロトンマグネットメーターG-816，G-826の二台で，いずれも任意の地点での地磁気の強度を±1ガンマの精度で測定できる。

探査対象地域は，測定の障害となるノイズがまったく無いことを事前に確かめていたので，これに対する配慮は必要なかった。しかし，測定区が寒風池東地区のように広域である場合には，測定が数日にわたるため，各日毎の測定値相互のレベルをそろえる必要があった。このためには固定点を設け，毎日の測定開始時に必ずこの点で10回の測定をおこなった。また日変化の補正のためには，各日毎に決めた定点において，1~1.5時間毎に10回の読みとりをした。調査期間中最大の磁気変動は1時間内30ガンマであった。

測定点は先に述べたように2m間隔である。窯体の幅が2m前後とみられることや，強い磁気を帯びていると予想されるため，この程度の間隔で測定するのが最も能率的であると考えたためである。また測定器のセンサー（磁気感知部）の高さは4フィートとした。窯跡のような強い磁気を感知するには，この高さで十分であり，低くすることによって受ける表土の影響が少ないようにしたのである。

探査結果

探査の結果，5ケ所に明瞭な磁気異常を認めた。これらはいずれも，寒風池東地区内にある。笹場池北の両地区では，窯跡の存在を示すほどの磁気異常はみられなかった。

以下に磁気異常個所を地点別に報告する。磁気異常は磁気強度のコンターマップによって図示した。なお各地点毎の図示範囲は第2図に示すとおりであるが，この区分は便宜的なものである。

1号窯地点（第7図）　この地点は，時実和一氏の調査によって，二基の窯跡が存在することが知られていた。また現地では，崖面に灰層の露出が認められ，これを中心に探査結果を照合すれば，窯体の位置が正確に推定できると考えられた。

探査結果をみると（第7図），DE150とDA144地点を中心とした二個所に，周囲より20ガンマ程磁気の強い部分がある。また，これに対応する磁気の弱い部分がそれぞれ北側にあって，地下に遺構や埋没物のある場合の典型的な磁気異常の形を示している。この磁気異常が丘陵斜面の高い方へ向って，細長くのびているところから，この二個所を窯体と推定した。二基はいずれもほぼ東西の方向をとり，

延長約6～7mほどの長さで，南北に約4～5m離れているとみられる。南の方の窯体（1－Ⅱ）は，やや東へ寄っているようである。現在露出している灰層は，この南側の窯体とよく対応する。

なおこの地点では，他にCW158の点を中心に磁気異常を認めたが，この部分は崖面にあたっているため，地形の影響で生じたものの可能性が強く，窯体とは判定しなかった。さいわい，確認調査の際にこの部分も発掘され，窯体は存在しないことが確かめられた。

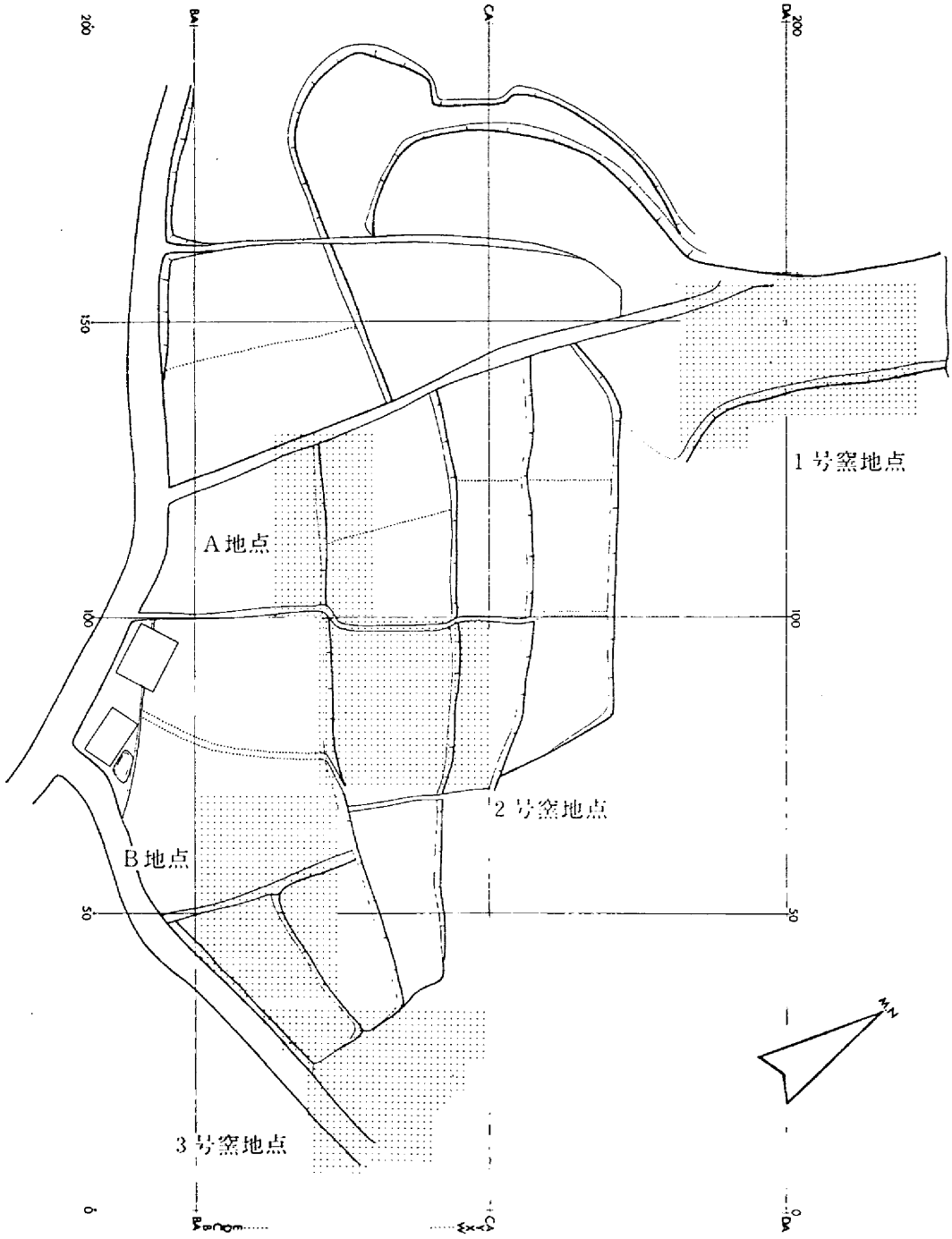
2号窯地点（第7図）　この地点は現在畑地で，窯壁片や須恵器片が広範に散布しているところから，窯体の残存状態が悪いのではないかと思われた。そのような場合には，弱い磁気しか示さないため，探査が困難となることもある。しかし，探査結果をみると，1号窯の場合よりも強い磁気を示すことがわかった。BT88地点を中心とした，南北に長い磁気異常がそれで，周囲より約80ガンマ程強い。ここでも強い磁気部分の北には，磁気の弱い個所がみられ，磁気異常の形としては典型的なものといえる。窯体はほぼ等高線に直行して，約8mほどの長さに残存していると推定される。

なおここでは，窯体前方のBKラインにそって，東西方向に細長い形で磁気異常が認められるが，この部分はちょうど畑と畑の間にある崖面にあたっており，地形の影響によって生じたものとみられる。

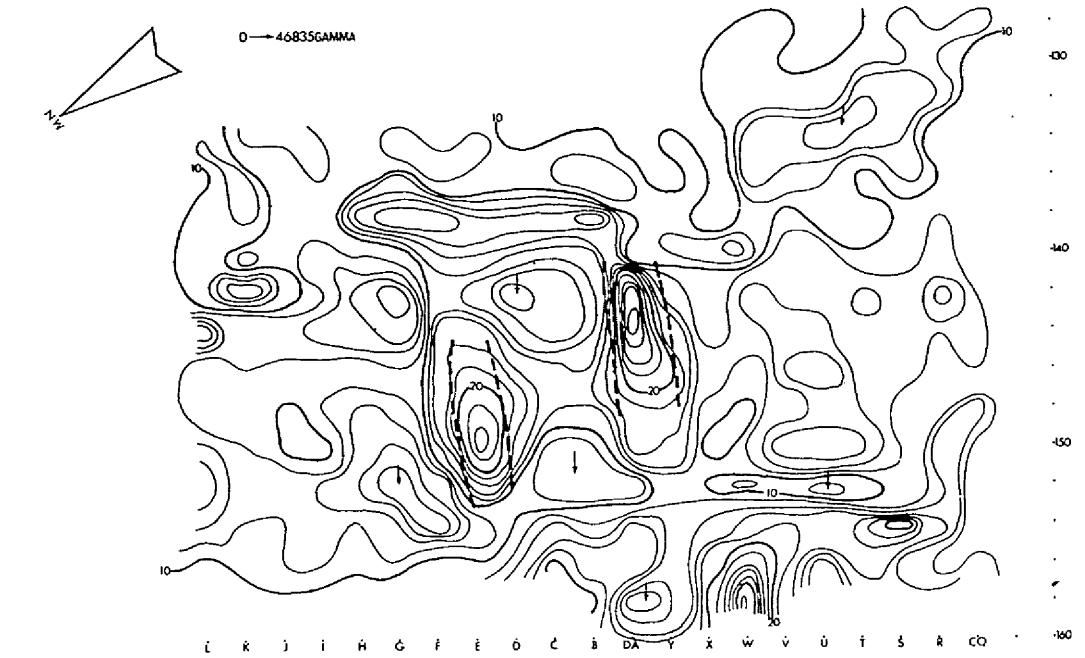
3号窯地点（第8図）　この地点は山道によって破壊された窯体が，崖面に露出している場所である。探査の結果，露出した窯体に一致する形で，磁気異常を認めた。窯体部分は周囲より30ガンマばかり強い磁気を示し，北には磁気の弱い部分があるが，これは通常みられる位置よりやや東へ寄っている。窯体は延長約6～7m残存していて，断面露出個所からみるとやや北西の方向にのびているようである。

A地点（第8図）　BK112地点を中心に狭い範囲の強い磁気異常を認めた。周囲より約120ガンマ程磁気が強い。これは磁気の強い部分の北側に半円形の弱い部分があり，典形的な極部磁気異常の形を示している。ここでは磁気異常の形は，窯跡のような長い形態をとっていない。窯跡以外の地下遺構，または他の埋没物などによって生じた磁気異常と考えられる。

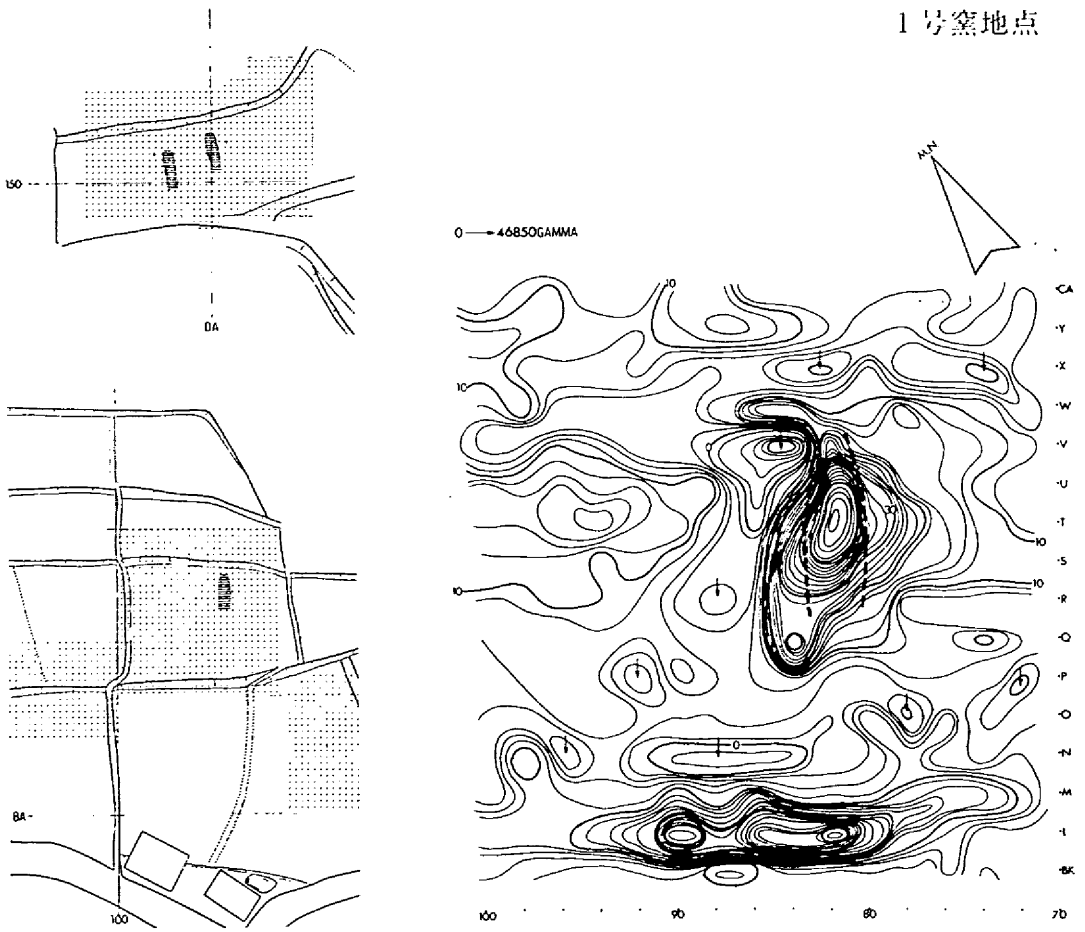
B地点（第9図）　BF40地点を中心に，周囲より40ガンマ程強い磁気異常を認めた。これは西北から東南方向に細長く，今までにみた窯跡と同じ形態の磁気異常である。しかしここでは，強い磁気異常の北側に必ずみられる磁気の弱い部分がなく，窯跡と判断するには不十分なものと考えた。またこの部分の南は，山道の崖面であるため，窯跡であれば当然そこに露出していてもよい状況にあるにもかかわらず，現在までに発見されていない点からも窯跡である可能性は少ないとみた。磁気異常のある場合，それが地下の何に原因があるにしても，通常北には磁気の弱い部分があるはずだが，これが無い理由は現状では不明である。しかしながら，この地点における窯跡や他の遺構の存在する可能性がまったく否定されたわけではない。今後資料の増加をまって，検討していきたいと考えている。



第6図　寒風池東地区探査結果図示範図

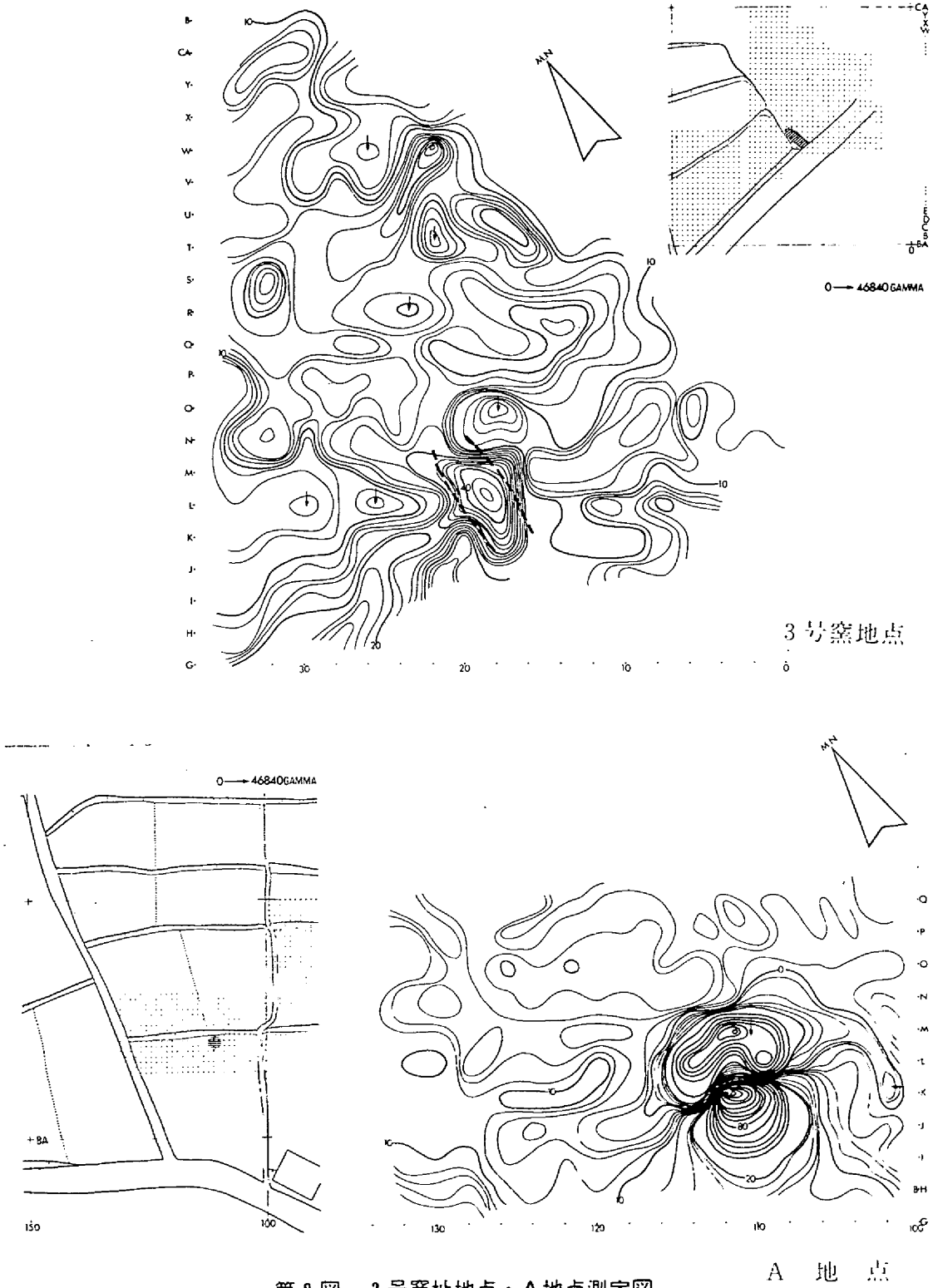


1号窯地点

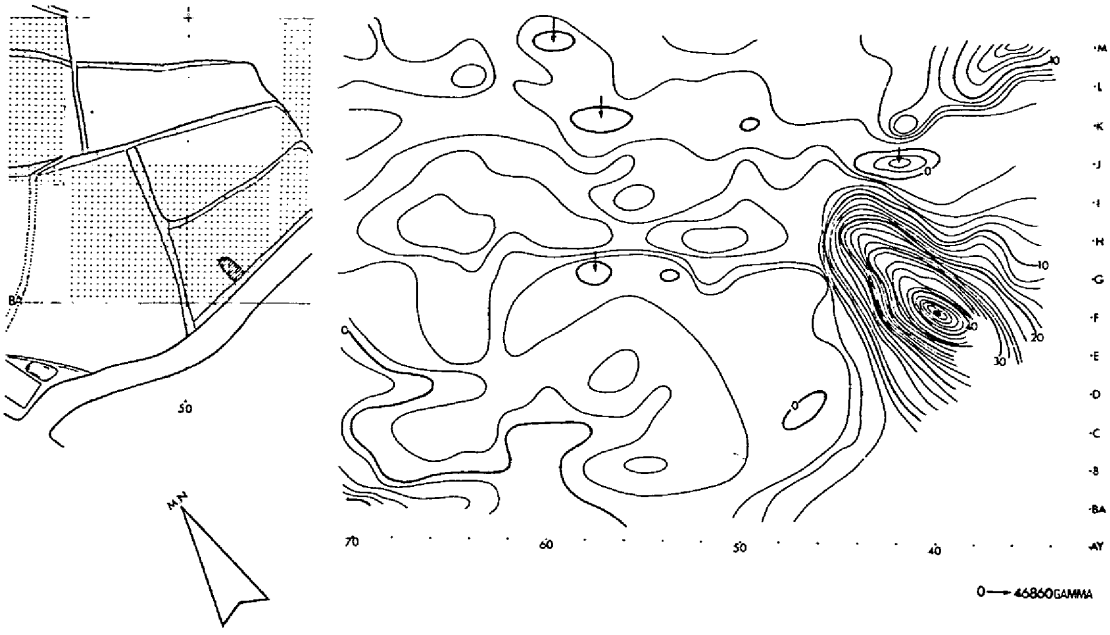


第7図　1・2号窯址地点測定図

2号窯地点



第8図　3号窯址地点・A地点測定図



B 地 点

第9図　B 地 点 測 定 図

表 4　寒風古窯址群磁気測定値表

		L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	DA	Y	X	W	V	U	T	S	R	CQ
128																45	44	40	45	42	44	42
130																43	45	45	43	43	43	46
2													48	48	45	43	44	44	39	40	41	46
4		46847	43	43	43	44	42	44	43	46	45	44	47	44	49	40	40	38	40	41	46	45
6		45	48	44	43	44	48	43	44	44	43	43	43	48	45	41	42	43	45	43	45	46
8		46	47	44	44	52	54	54	49	51	51	54	45	44	48	45	46	44	44	45	47	46
140	46	46	43	44	42	43	44	49	49	47	45	47	44	43	43	41	48	48	45	46	47	46
2	47	46	52	46	43	38	35	46	44	40	42	45	62	48	46	50	48	48	49	48	51	47
4		36	42	42	40	40	38	50	50	44	42	45	63	52	46	48	50	49	48	48	47	47
6		44	43	44	44	44	43	50	53	49	48	47	57	56	48	46	51	52	48	48	45	47
8		44	44	45	43	41	42	49	57	53	47	47	52	53	46	45	48	50	49	44	46	50
150		41	43	45	46	40	38	46	59	50	42	43	53	50	44	47	52	51	51	47	50	46
2		38	42	42	41	39	35	40	50	45	42	42	42	46	45	43	45	43	45	46	48	41
4		41	43	43	42	43	41	35	42	45	49	47	51	49	49	52	53	52	53	52	51	46
6		47	44	43	43	44	43	46	45	49	55	52	51	48	54	58	48	47	52	49	46	49
8												55	44	47	56	67						
160																						

1号窯地点

		100					90					80					70
CB																	
CA		46856	59	60	56	54	62	63	57	56	56	56	56	56	59	56	
Y		62	62	60	59	58	61	64	64	61	58	55	54	58	57	55	
X		61	58	57	57	59	55	54	55	51	50	58	51	51	50	57	
W		58	61	53	53	53	53	57	64	66	59	61	67	60	59	54	
V		54	54	60	58	53	53	50	46	39	75	65	65	64	62	59	
U		65	62	66	63	64	60	60	48	54	99	81	65	64	59	57	
T		64	64	67	69	64	63	57	49	77	108	86	74	66	61	57	
S		61	61	61	59	61	58	53	53	87	100	79	68	66	61	61	
R		58	59	61	60	58	54	51	55	78	77	66	56	56	55	55	
Q		56	56	56	57	56	56	55	56	60	61	62	58	57	60	55	
P		55	56	57	56	51	58	56	56	57	54	53	56	56	55	50	
O		54	53	56	57	56	54	54	55	54	52	58	50	58	52	53	
N		54	65	51	55	51	48	47	48	48	53	54	58	55	53	56	
M		53	58	58	57	57	61	58	67	57	58	58	63	65	64	59	
L		59	59	59	63	68	84	70	87	82	91	77	62	59	53	54	
BK		55	53	52	51	53	53	49	50	53	53	55	54	57	52	53	
J																	

2号窯地点

		34		30					20					10					0
B			51	53															
CA		46852	57	58	48														
Y		57	50	52	44	41													
X		51	50	53	51	46	47	44											
W		50	54	48	47	44	49	67	52										
V		53	57	48	53	46	56	55	52	49									
U		51	50	55	55	55	61	48	58	62	50								
T		54	58	55	57	57	55	45	51	53	51	47	50						
S		60	68	55	57	54	55	55	59	56	53	53	55						
R		60	61	56	55	53	51	53	58	60	62	62	59	53	49				
Q		57	58	53	53	60	56	61	60	58	59	64	56	54	52				
P		46	57	53	54	53	54	57	61	59	61	55	52						
O		46	57	56	54	56	55	58	52	41	52	53	52	46	43	54	50	47	43
N		57	67	49	58	60	55	60	51	50	50	52	45	43	45	51	48	50	
M		50	48	47	49	54	58	62	93	66	44	45	45	48	52	49			
L		47	46	45	49	47	49	54	88	906	53	51	55	54	62				
K		46	49	49	53	58	61	61	47	65	52	49	50	50	54				
J		50	51	54	59	63	58	47	48	50	52	52	53	57	56				
I		50	55	60	67														
H		52	61	62															
G		62																	

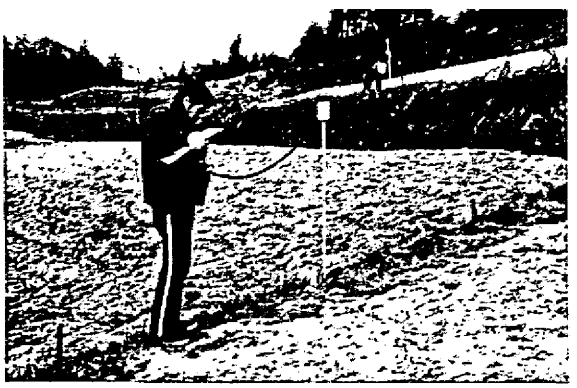
3号窯地点

			130					120					110				100
T																	
S		46847	848	844	47	47	45	46	42	47	49	47	53	43	49	47	46
R		51	56	51	51	56	64	56	59	61	56	60	58	64	58	56	54
Q		41	47	46	46	46	44	46	47	46	45	48	44	44	44	42	41
P		49	43	46	44	45	47	48	48	43	44	46	47	43	45	44	43
O		50	47	46	50	46	50	49	49	46	49	44	41	41	42	41	42
N		45	43	45	47	49	47	43	47	49	50	45	36	37	41	42	44
M		45	43	45	44	43	44	43	44	43	826	752	757	825	34	37	33
L		50	55	43	46	47	46	52	46	38	777	828	771	35	41	44	47
K		48	49	48	50	51	50	49	45	33	814	7087	972	863	49	44	35
J		49	49	49	46	44	45	42	41	44	60	921	911	65	50	43	44
I		51	50	51	46	47	48	46	48	51	54	64	65	57	51	48	42
H		58	55	57	49	47	49	48	51	52	54	56	52	53	51	52	50
BG																	

A 地 点

		70					60					50					40		
N																			
M		46867	63	63	64	62	59	62	63	64	65	64	62	62	64	64	67	72	73
L		64	65	65	67	62	62	61	63	62	62	61	62	62	63	65	65	72	66
K		61	62	63	63	63	62	58	60	61	61	60	62	62	62	69	61	61	61
J		62	64	66	66	65	65	62	64	63	62	64	62	64	59	56	61	61	62
I		64	65	66	67	67	66	64	61	63	64	66	65	66	72	64	61	66	64
H		66	68	69	69	66	67	67	65	67	69	68	66	65	66	67	72	73	66
G		64	63	65	66	63	62	59	61	60	65	62	61	61	79	92	66	64	71
F		63	63	65	65	62	61	62	63	62	61	62	61	63	70	91	[illegible]	[illegible]	66
E		59	63	64	65	62	63	63	64	63	62	62	61	61	65	74	66		
D		58	56	60	61	63	62	64	64	62	63	61	61	60	64	70			
C		60	62	64	64	60	60	60	61	63	63	62	60	61	64	67			
B		57	61	62	61	60	59	62	64	64	63	62	61	64					
BA		50	54	56	56	59	59	60	61	61	61	62	65	67					
AY																			

B 地 点



第10図　磁気探査風景

第3章　トレンチ調査結果

調　査　概　要

トレンチ調査は昭和53年3月6日より3月20日までの約2週間にわたり，寒風池東散布地の遺構の確認と第1号窯址地点の遺構の保存状況と基数の確認ならびに磁気調査の実証を兼ね，最終的には計13本のトレンチを設定し，総面積280m^2程の発掘を行った。トレンチの設定は磁気調査のグリッドを使用し，これにほぼ合せて行い，磁気調査との比較検討が簡便に行える方法をとった。

以下各地点ごとの調査の結果を記す。

第1号窯址地点

磁気調査により反応の認められた2基の窯址の確認と，灰原に認められた磁気異常部分の3か所に計4本のトレンチを設定した。検出遺構は第1，13トレンチから1－Ⅰ号窯址，第2トレンチから1－Ⅱ号窯址，又第1トレンチ南端からは窯址に付属すると考えられる排水溝状の溝を検出した。ただ灰原に設定した第3トレンチからは新たな窯址は確認できず，大量の灰原堆積層の確認のみに終った。

1－Ⅰ号窯址　　当初，第1トレンチのみで遺構の確認ができず，さらに3m東に新たに第13トレンチを設定して窯址を検出した。この結果から第1トレンチの北半の掘下げを再度行い，両トレンチで窯址本体の確認を行った。

第1トレンチでは表土より遺構面まで－1.5m，第13トレンチで－1.1mとかなり深く，畑として開墾した時点でかなりの堆積が加わっていた。窯址規模は第1トレンチで窯壁幅2.4m，天井部より床面までの深さ85cmを確認し，第13トレンチでは窯壁幅1.9m，残存上面より床面までの深さ95cmを確認した。

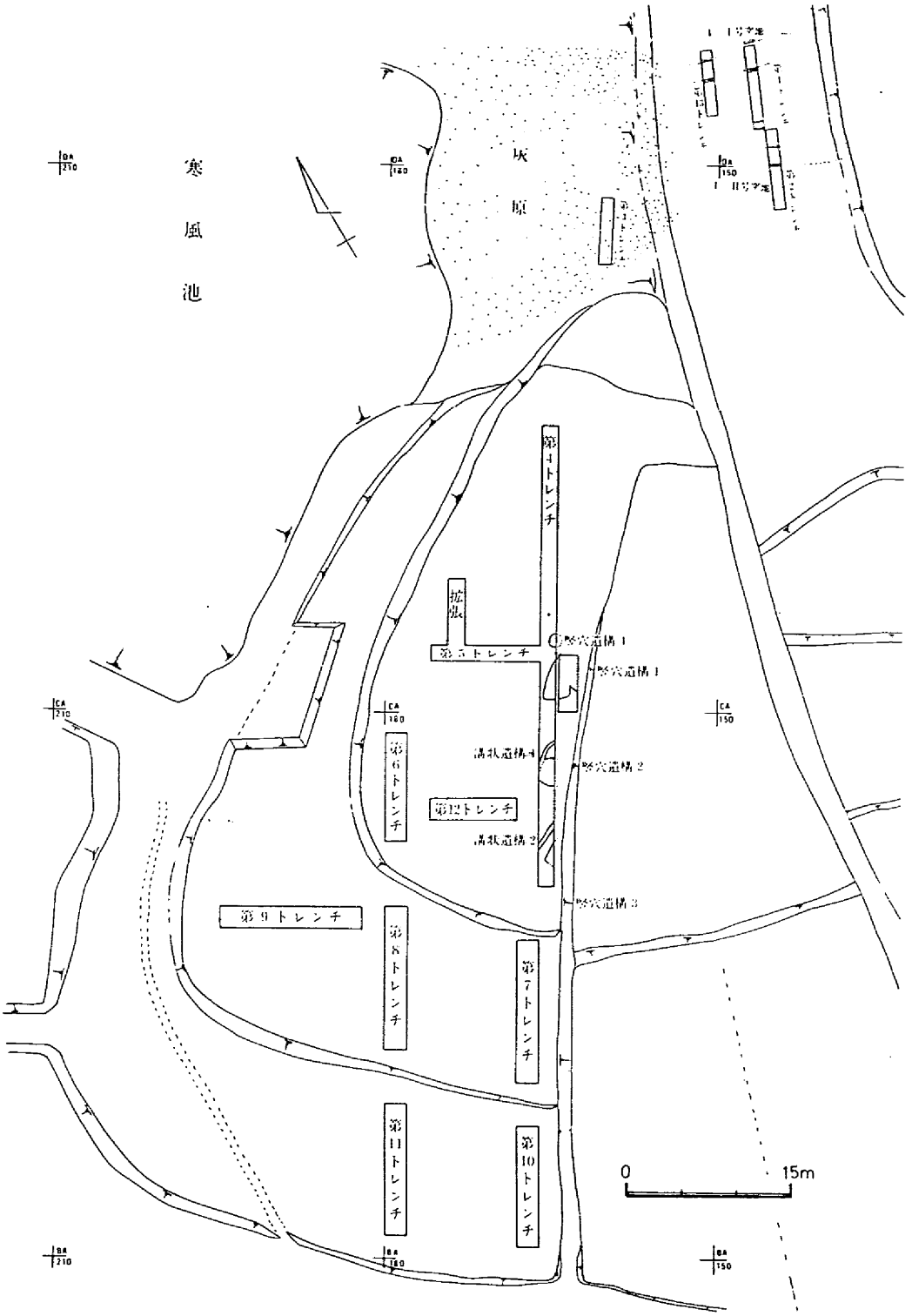
1－Ⅱ号窯址　　第2トレンチのやや北よりに表土より－65cmで遺構上面を検出した。確認した面での窯址最大幅1.6mを測り，窯壁上面より床面までボーリングの結果深さ1.2mを測る。窯壁北側では天井部にかかる部分まで残存しており，窯址の残存状況はかなり良好と認められる。

溝状遺構（排水溝）　　第1トレンチの南端でトレンチに直交する方向で検出した。上面幅50cm，深さ20cmを測り，地形の傾斜に従って東→西に低下している。この小溝はいずれかの窯址に付属し排水溝状の機能を持つ溝と考えられる。

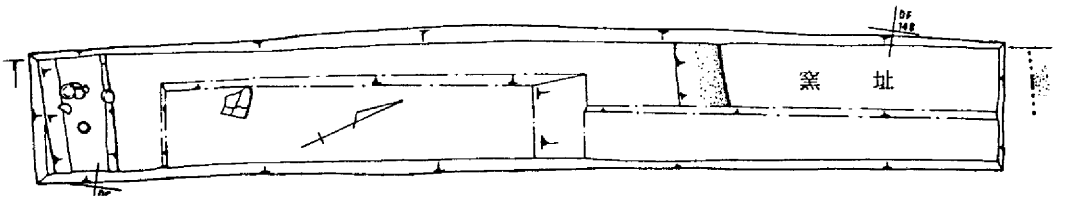
第3トレンチ　　磁気測定の結果磁気異常が認められた地点である。トレンチは最も数値の大きかった場所に幅1m×長さ6mにわたり設定し灰原層除去後に地山面下20cm程まで掘下げた。しかし，調査結果では新たな窯址は確認できなかった。

地山面までの灰原の堆積は北側で1.6m，南側で80cmを測り，このトレンチのみで整理箱30箱にのぼる須恵器が出土した。

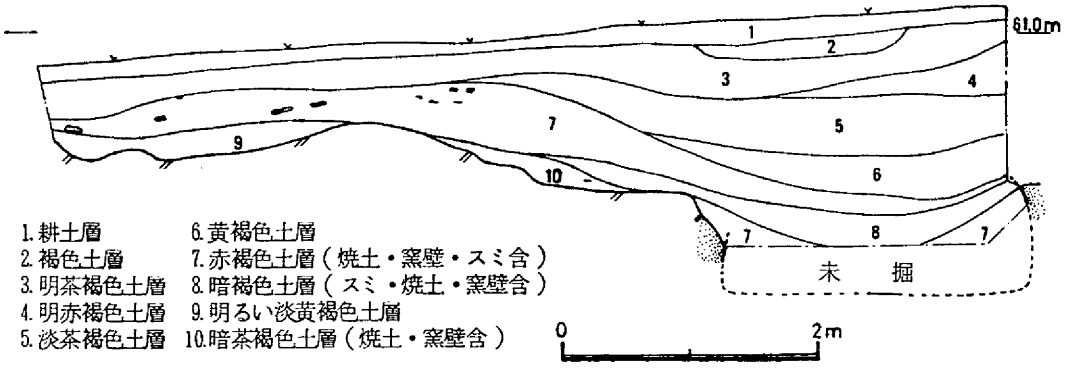
寒風池東散布地


寒風池
灰原
第4トレンチ
拡張
第5トレンチ
竪穴遺構1
竪穴遺構1
第6トレンチ
溝状遺構4
竪穴遺構2
第12トレンチ
溝状遺構2
竪穴遺構3
第9トレンチ
第8トレンチ
第7トレンチ
第11トレンチ
第10トレンチ
0
15m

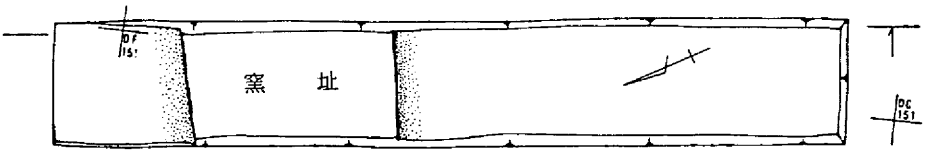
第11図　遺構配置図



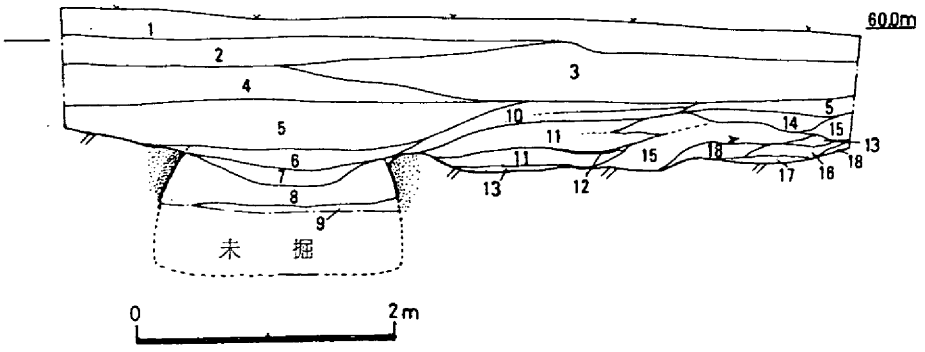
第１トレンチ



1. 耕土層
2. 褐色土層
3. 明茶褐色土層
4. 明赤褐色土層
5. 淡茶褐色土層
6. 黄褐色土層
7. 赤褐色土層（焼土・窯壁・スミ含）
8. 暗褐色土層（スミ・焼土・窯壁含）
9. 明るい淡黄褐色土層
10. 暗茶褐色土層（焼土・窯壁含）

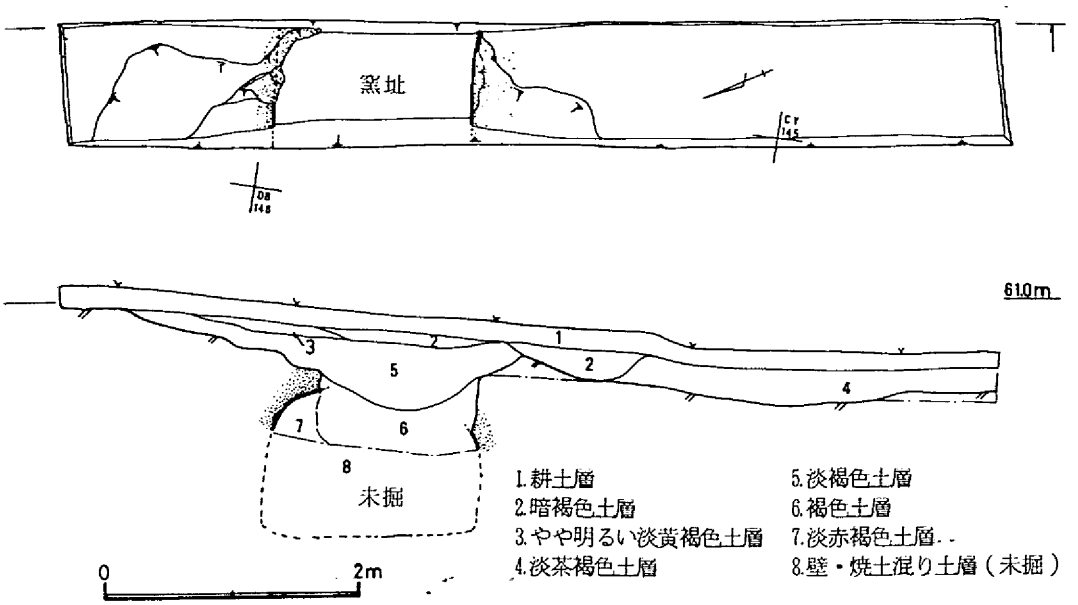


第13トレンチ



1. 耕土層
2. カク乱土層
3. 茶褐色土層
4. 茶色土層
5. 暗茶褐色土層
6. 暗茶褐色粘質土層
7. 暗褐色土層
8. 褐色土層
9. 焼土・窯壁土層
10. 明茶褐色土層（スミ・焼土含）
11. 暗茶色砂質土層
12. 赤褐色粘質土層
13. 淡黄褐色粘質土層
14. 灰褐色土層
15. 黒灰色土層（スミ・焼土含）
16. 砂層
17. 灰色土層（スミ含）
18. 灰茶褐色粘質土層

第12図　第１・13トレンチ実測図（１－Ｉ号窯址）



第13図　第2トレンチ実測図（1—Ⅱ号窯址）

第1・2号窯址地点の中間の北東から南西に延びる小舌状丘陵の地点である。須恵器の散布は陵線より南斜面にわたりかなりの量が認められ，当初灰原の可能性も考えられていた。しかし，磁気探査の数値分析では窯址の反応は認められず，また窯壁等の散布も見られないことから窯址に付属する遺構が最も濃厚に考えられるようになった。

調査は地権者の承諾のえられた陵線より北側の地区のみに限定され，最も散布の密度の高い地点への設定が不可能となり，散布地としての全貌は充分つかみえなかった。しかし，計9本のトレンチからは竪穴遺構3，溝状遺構2を検出し，ある程度の成果をあげることができた。

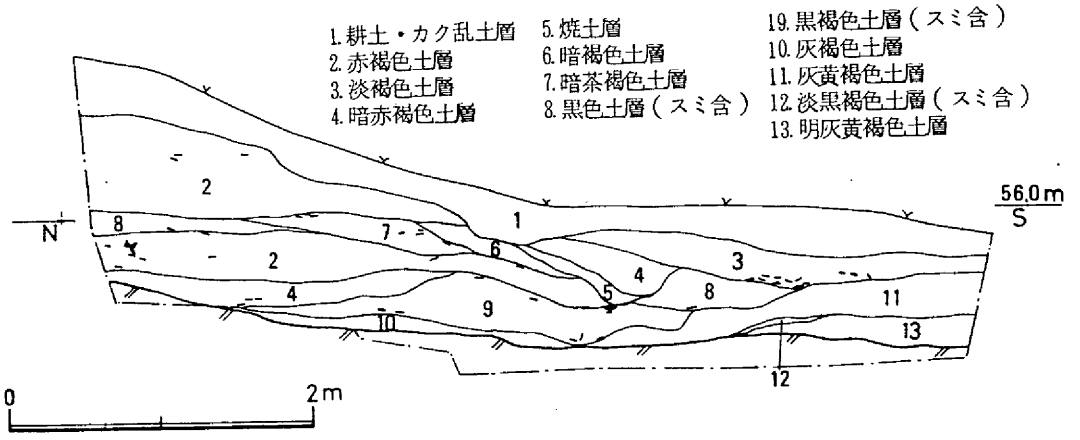
なお，トレンチは第1地点と同様に磁気調査時のグリッドにあわせて設定した。

竪穴遺構1　第4トレンチほぼ中央と東拡張区で検出した不整形の掘込みである。第4トレンチでは方形の掘方を示し，あるいは竪穴住居址の可能性も考えたが，東側を拡張した状況では明瞭なプランを示さず断定できない。

トレンチ壁にそった遺構内の掘下げでは床面まで深さ35㎝を測りほぼ水平な面を呈している。ただ掘込みの中央で幅15㎝×高さ10㎝程の地山削出しの高まりが認められた。

出土遺物は埋土上層～下層に至るまで須恵器（甕・杯等）が出土している。また，前述した地山削出しの高まりの南側で床面に接し，径10㎝×厚さ0.8㎝程の粘土塊を検出している。

竪穴遺構2　竪穴遺構1の南5㎞にトレンチ幅いっぱいに検出した遺構である。後述する溝状遺構1と重複しているが円形に近いプランを呈している。



第14図　第3トレンチ断面図　（1—Ⅱ号窯址灰原）

トレンチ壁にそった遺構内の掘下げでは床面まで20㎝を測りほぼ水平な面を呈している。掘込み南端では2か所に浅い落込みを検出している。

出土遺物は堆積土上層で須恵器が認められ，下層～床面で弥生式土器片が数点出土している。

本遺構は周溝，柱穴等が未確認ではあるが弥生時代後半の竪穴住居址の可能性が強い。

竪穴遺構3　竪穴遺構2と5ｍの間隔を置き第4トレンチ南端で検出した方形プランを呈す遺構である。トレンチ壁にそった遺構内の掘下げでは床面まで最大深さ20㎝を測りほぼ水平面を呈している。床面は南端で削平をうけ掘込み面は確認できなかった。

なお，後述する溝状遺構2は70㎝の間隔を置きほぼ平行しており，本遺構に付属する可能性がある。

出土遺物は埋土上層～下層にわたり須恵器を含む。

竪穴遺構4　竪穴遺構1の北側に1ｍの間隔を置き検出した長径1.2ｍを測る楕円形の遺構である。トレンチ壁にそった遺構内の掘下げでは床面までの深さ30㎝を測りほぼ水平な面を呈している。

出土遺物は須恵器が堆積土の上層～下層にわたり認められた。

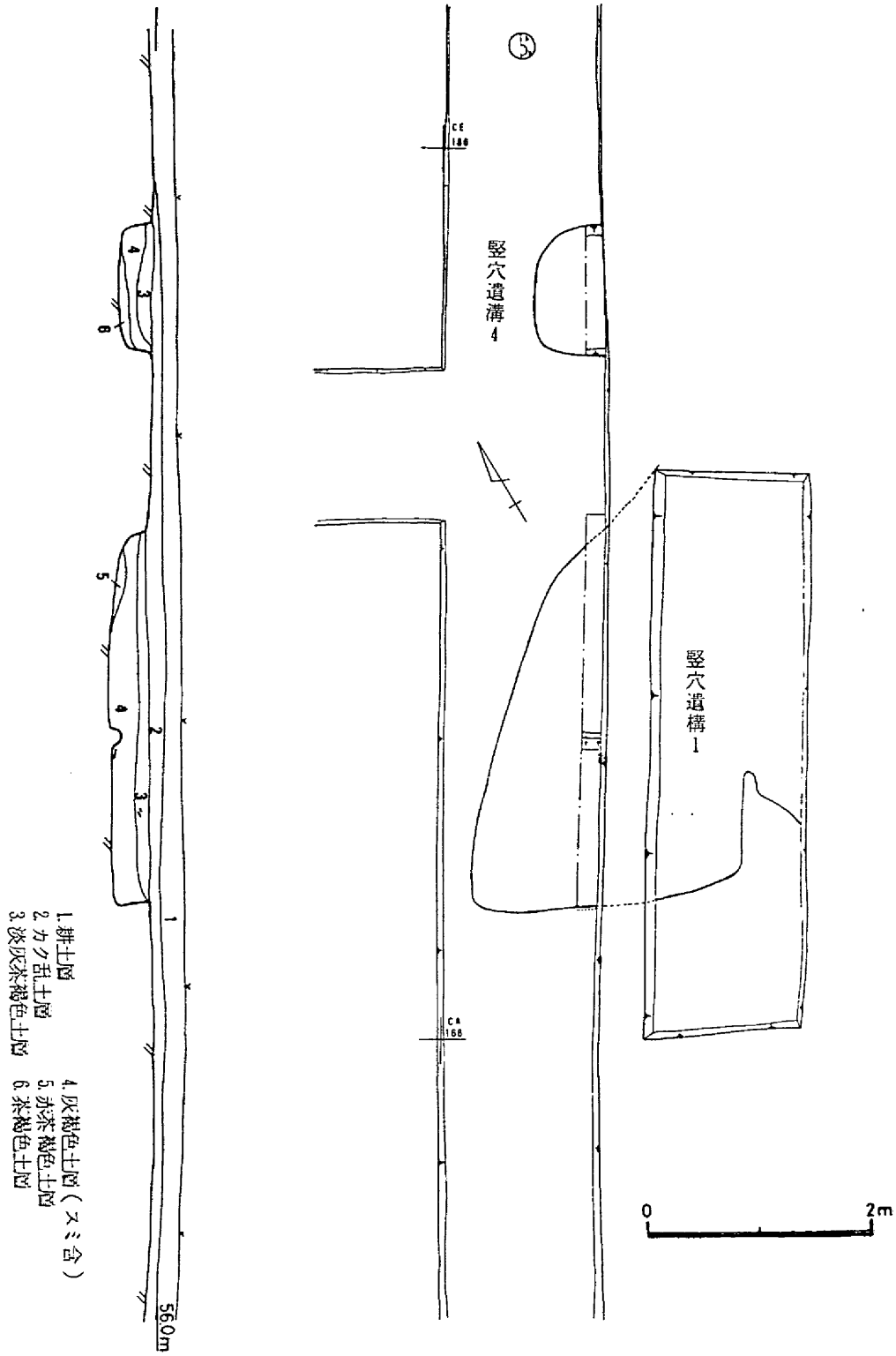
溝状遺構1　竪穴遺構1と重複して検出した北東から南西に走る遺構である。規模は検出長2.5ｍ，幅30㎝，深さ10㎝を測り弓状のプランを呈している。

出土遺物は須恵器片のみである。

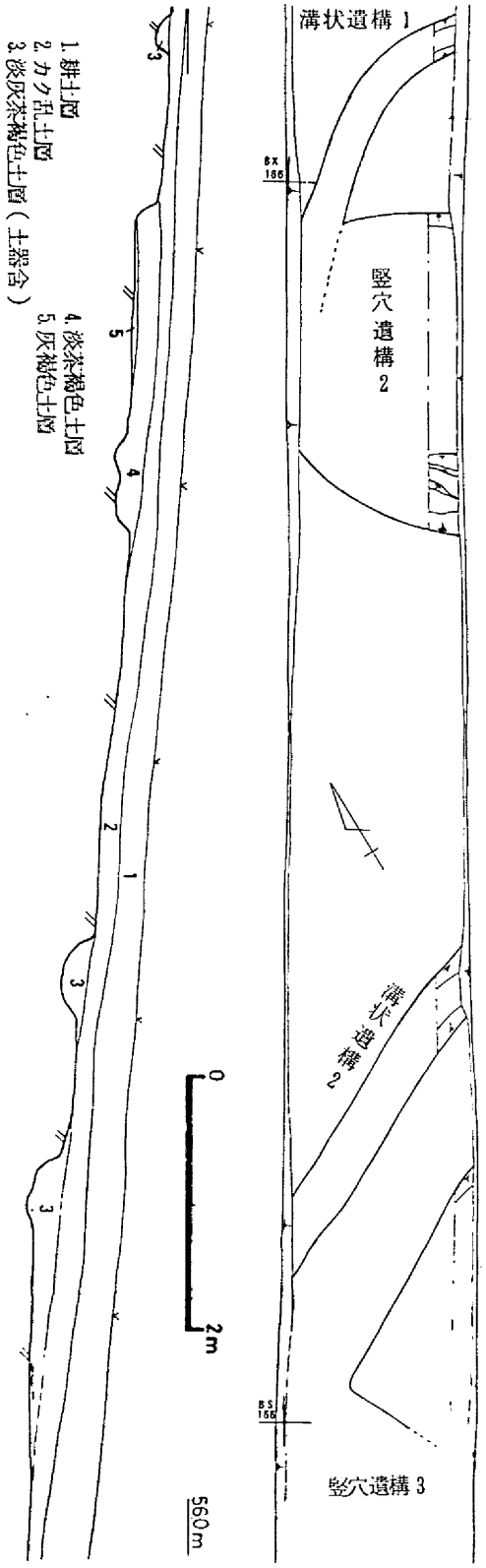
溝状遺構2　竪穴遺構3と70㎝の間隔を置き北東から南西に走る遺構である。規模は検出長3ｍ，深さ30㎝を測りほぼ直進している。

出土遺物は須恵器片がかなり出土している。

その他のトレンチ　遺構を検出した第4トレンチ以外では耕土下20～30㎝で地山面に達し，遺構は皆無で遺物もほとんど認められない。



第15図　第４トレンチ実測図（竪穴遺構１・４）



第16図
第 4 トレンチ実測図
（竪穴遺構 2 ・ 3, 溝状遺構）

第4章　出　土　遺　物

寒風古窯址出土の遺物については古くから時実和一氏によって採集され，また種々の報告も行われている。（註1）

現在これらの採集品は，都窪郡山手村吉備考古館，邑久郡邑久町邑久考古館および邑久郡牛窓町民俗文化資料館等に展示されている。採集品からみた寒風古窯址群の特徴は，須恵器の各器種の製作と共に，陶棺，鴟尾，塼等の特殊な製品も数多く製作されていることである。特に寒風1号窯址灰原からは多量の鴟尾片が採集されており，供給先である寺院址との関連が注目される。

今回の調査の採集及び出土遺物は1号窯址灰原のものが主で，整理箱70箱程にのぼっている。その内訳は下草刈り後の採集品が整理箱40箱程，トレンチ調査による出土品が整理箱30箱程である。

第17～26図に掲載した遺物は，各資料館に展示保管されている時実氏採集品の一部である。今回の調査の採集および出土遺物は，時間的制約により本報告書に掲載できなかったが機会をあらためて報告を行いたい。

寒風古窯址群の須恵器の編年については，時実氏採集品をもとに，西川宏氏により第1，第3号窯址出土須恵器（本報告書の第2，第1号窯址）を基準にして型式設定が試みられている。（註2）

さらにこれらの窯址群の資料をもとに吉備地方の須恵器の編年作業が行われている。（註3）

本項では西川氏の編年に基き，さらにトレンチ調査の結果を考慮に入れ，寒風古窯址群の操業年代と変遷について検討を加えてみたい。

出土須恵器の分類

須恵器のうちもっとも普遍的に認められ，器形の変化がとらえやすい蓋杯をそれぞれA～Cの3分類とした。

杯蓋A類（1～12）　口径10～11cm，器高3～4cmを基準とする。天井部は丸味がなく口縁端部が内湾又は垂直に下り，端部を丸くおさめている。

杯身A類（36～49）　口径9cm，受部径11cm，器高3cm前後を標準とする。受部の立上りは3～5mm程と短い。口縁部立上りが受部より下方のもの（41），受部の退化したもの（36）も認められる。

杯蓋B類（13～24，34，90～95）　杯身に法量差が現われるが，一般的な器形は口径10～11cm，かえり径9～10cm，器高3cm前後を標準とする。天井部中央に擬宝珠様のつまみを付し，内面端部に内傾するかえりを施している。

杯身B類（23，50～52，59）　法量の差が現われる。小形の器形はやや平底を呈し，口縁端部でゆるく外反する。

杯蓋C類（26～29，31～33，35，96）　B類と同様法量の差が認められる。天井部中央に扁平なつまみを有し，口縁端部は屈曲する。

杯身C類（53～57，58，61）　口縁部はやや内湾して立上り，端部を丸くおさめている。底部は扁平で，八字形に高台を付す。

その他杯蓋25，30は上記の分類以外の形態を示すが，少量の為指摘するにとどめる。

以上，寒風古窯址群中の，特に1，2号窯址出土遺物の蓋杯について，トレンチ調査の結果等を考慮にしてA～Cの3分類を行った。A類は西川氏編年における亀ケ原1式に類似し，B類は寒風1式の範中に入り，C類は寒風3式と同一と考えられる。

また，これらのA～Cの3分類は，近年調査が行われた邑久古窯址群中の宮甲窯址（註4）の1～3類の変遷と同一の様相を呈している。さらに，C類は，同じく調査が行われた奥更谷窯址（註5）と同一時期と考えられる。

註1　時実黙水「土器ト窯址ニ就テ」『吉備考古』20～29号　1934年2月～1936年5月

註2　西川宏「備前における須恵器の編年的研究古墳時代」『岡山県私学紀要』2　1966年
　　西川宏「窯業」(ii)古代後期(5)瀬戸内『日本の考古学』　1970年

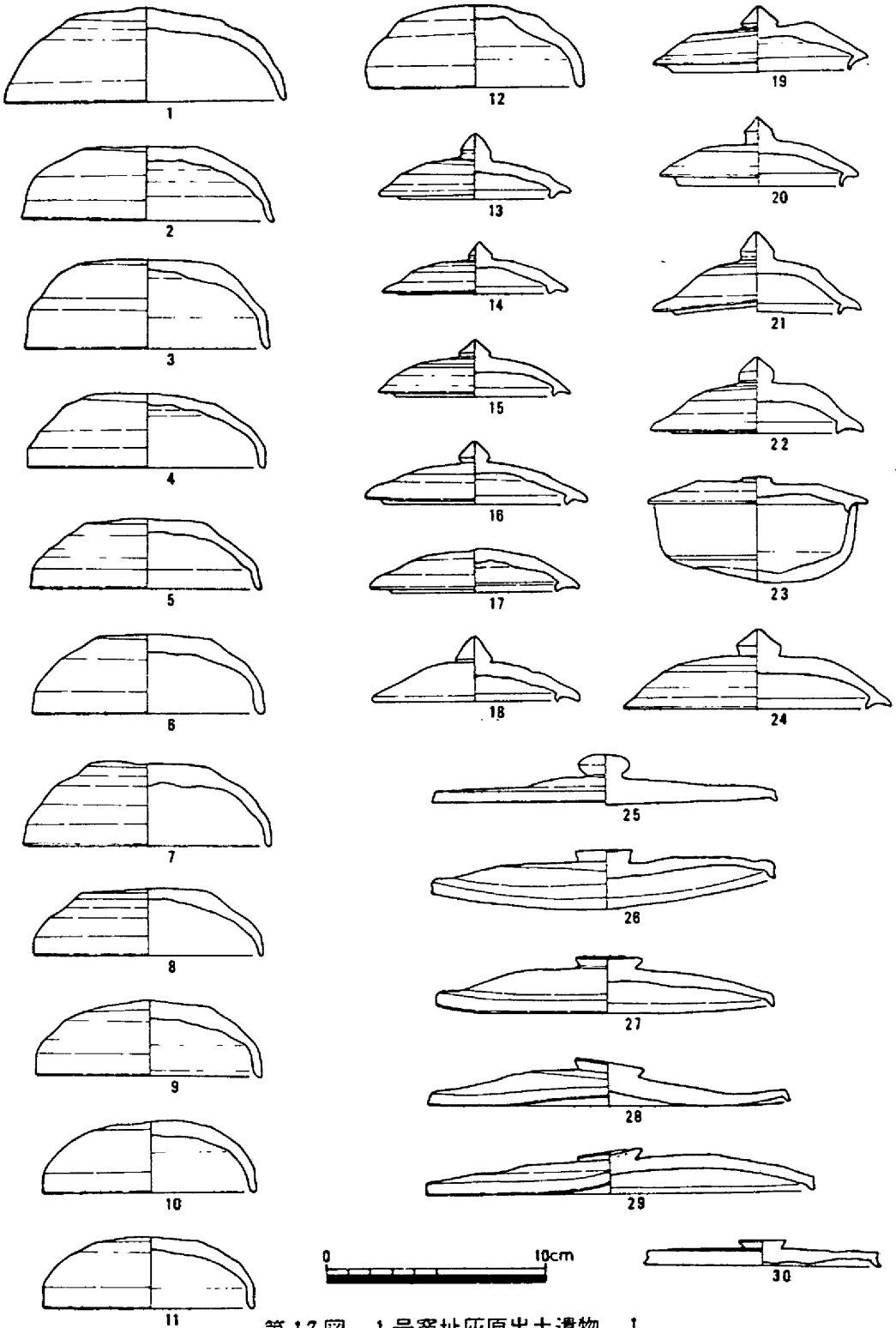
註3　西川宏「備前の古窯」『古代の日本』4　1970年

註4　伊藤晃『新林（宮甲）窯址の調査報告』邑久町教育委員会　1974年3月

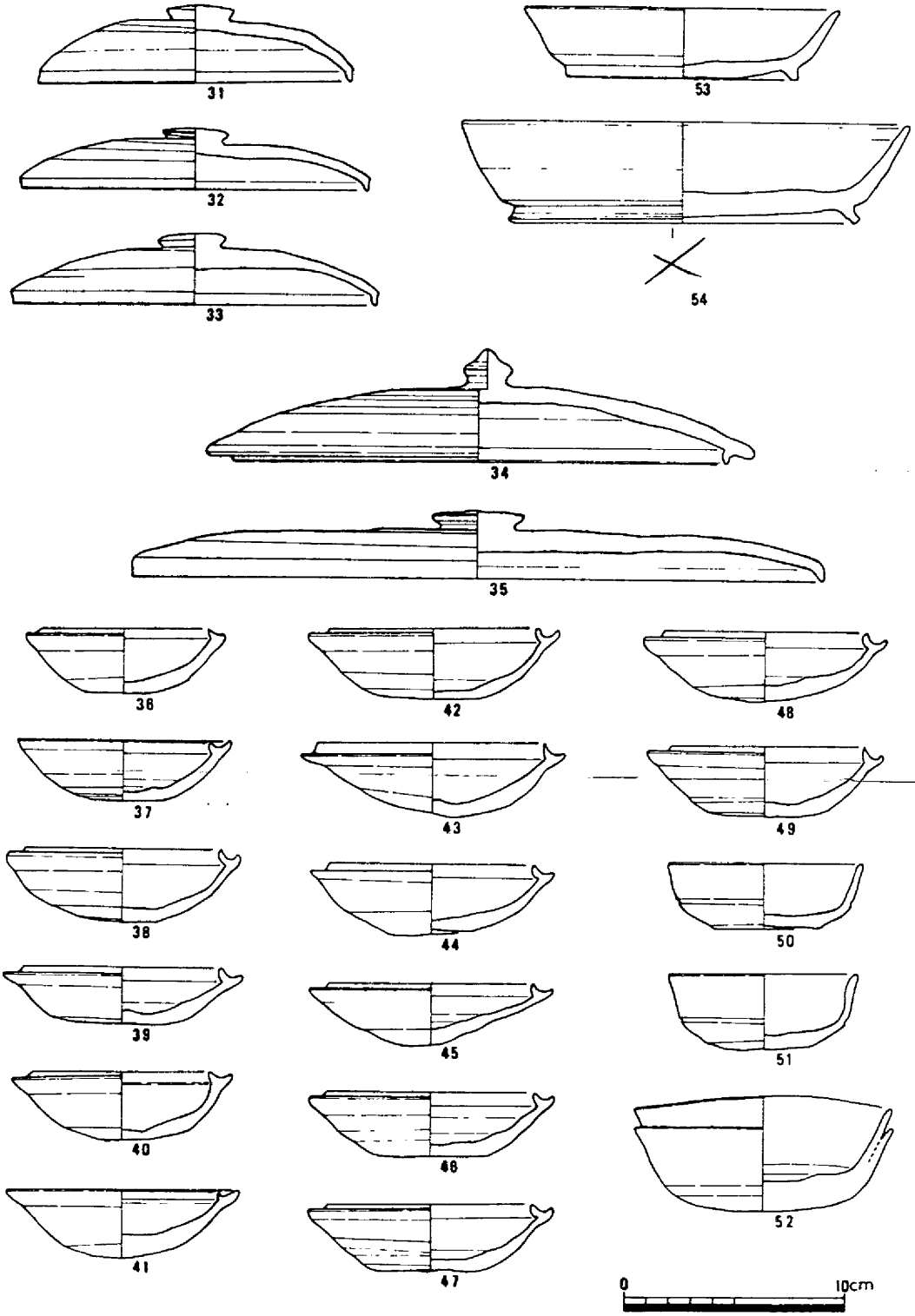
註5　葛原克人『奥更谷古窯址の調査報告』邑久町教育委員会　1975年3月

表5　窯　址　変　遷　表

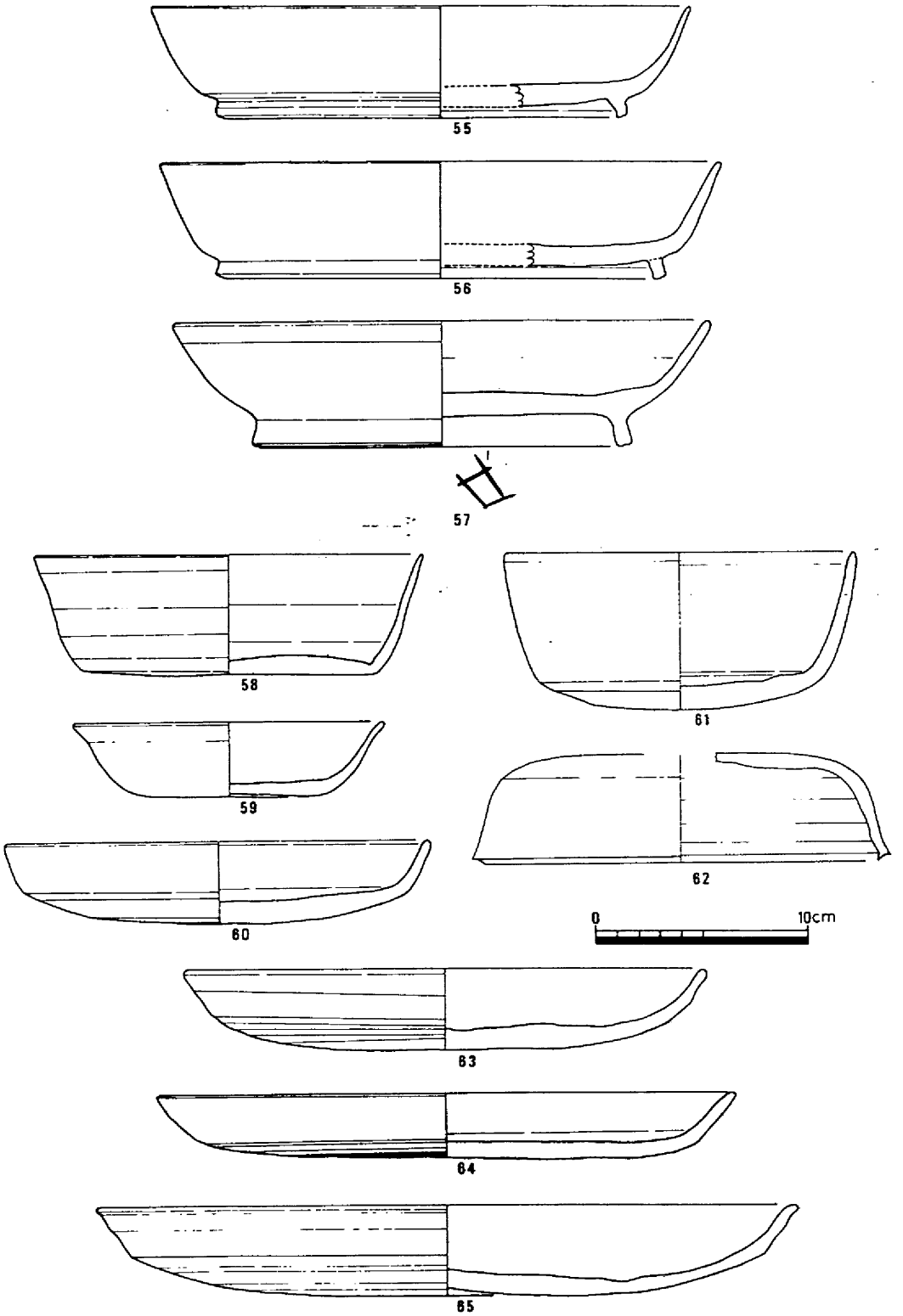
項目／分類	窯址 1－Ⅰ	窯址 1－Ⅱ	窯址 2	須恵器蓋杯	その他の器種（主なもの）	年代
A類	▮		▬	1～12 36～49	71・113	7世紀初頭～前半
B類	▮	▬	▮	13～24，34 50～52，59，90～95	73，87，99 101，105，117	7世紀前半～中葉
C類		▮	▮▬	26～29，31～33 35，53～58，96	70，75，77，78 82，83，100	7世紀後半



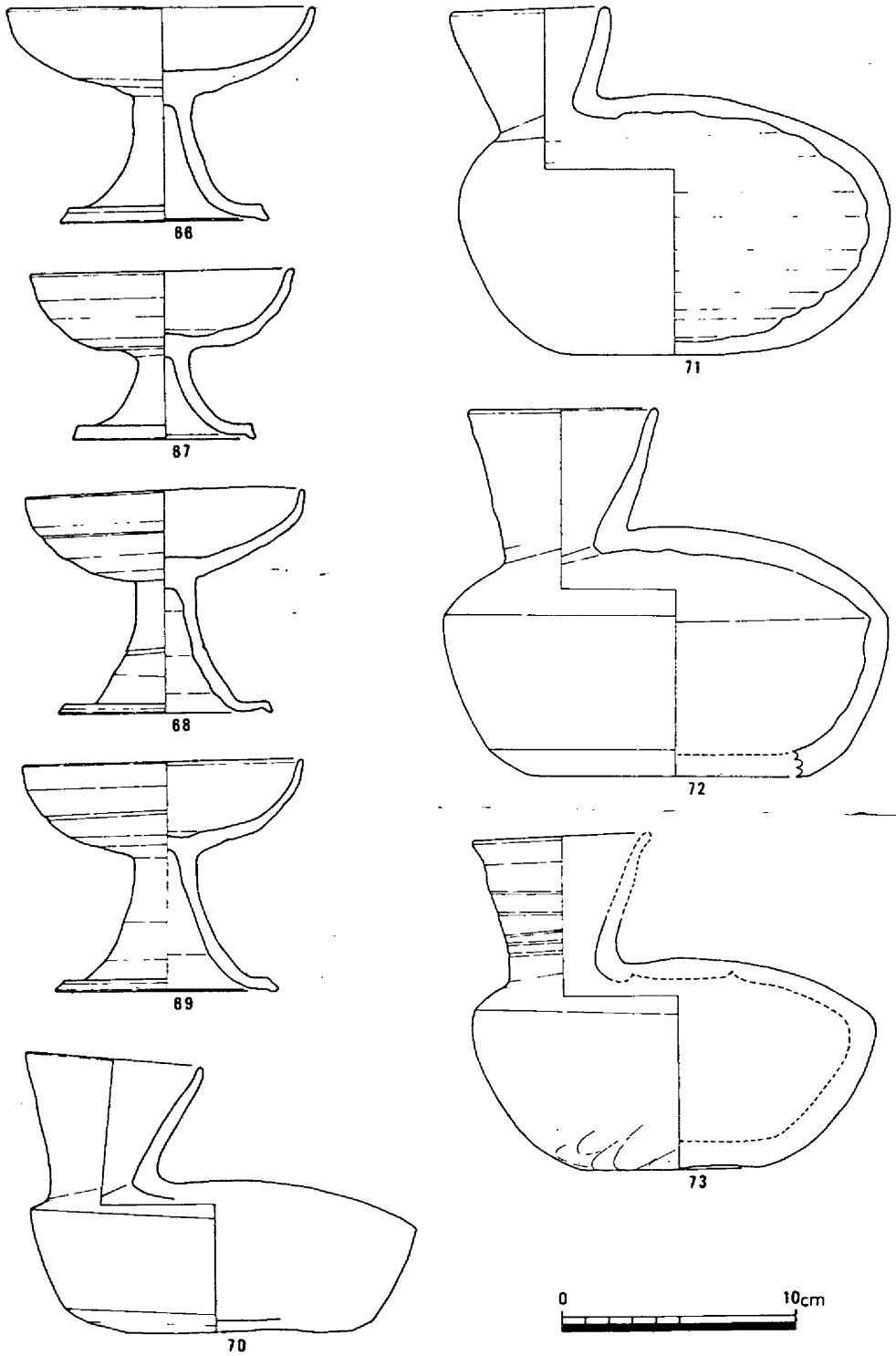
第17図　1号窯址灰原出土遺物　1



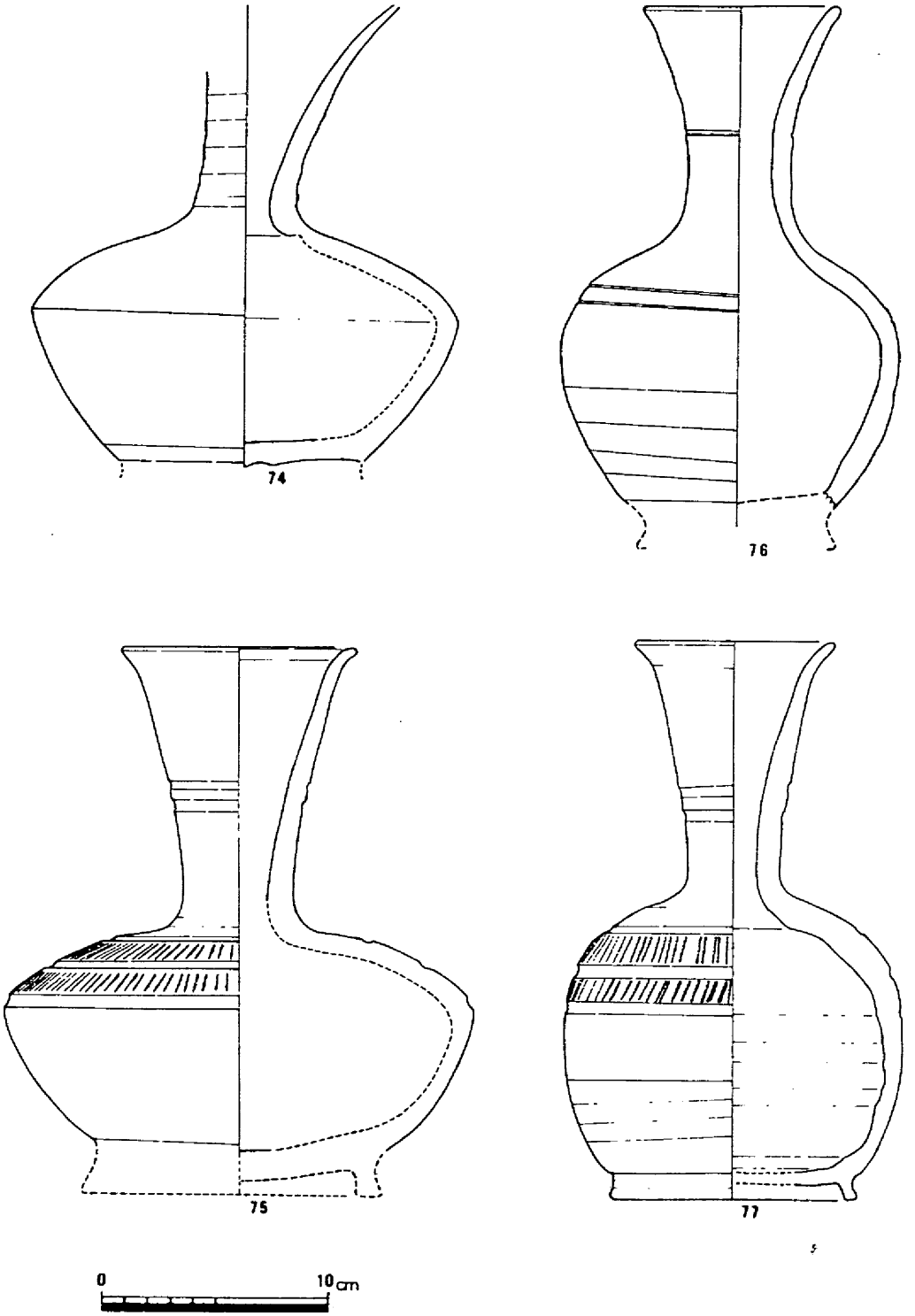
第18図　第１号窯址灰原出土遺物　2



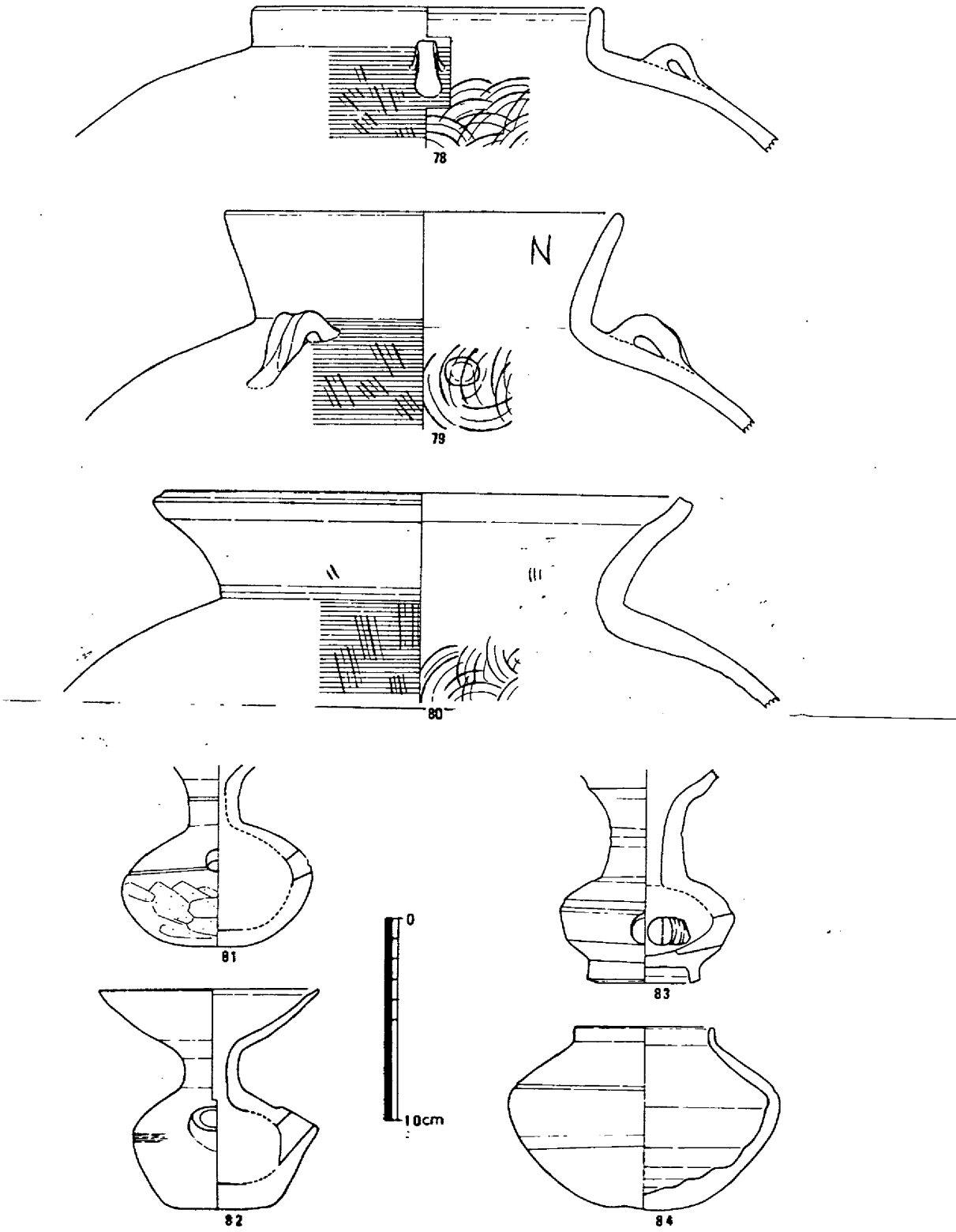
第19図　1号窯址灰原出土遺物　3



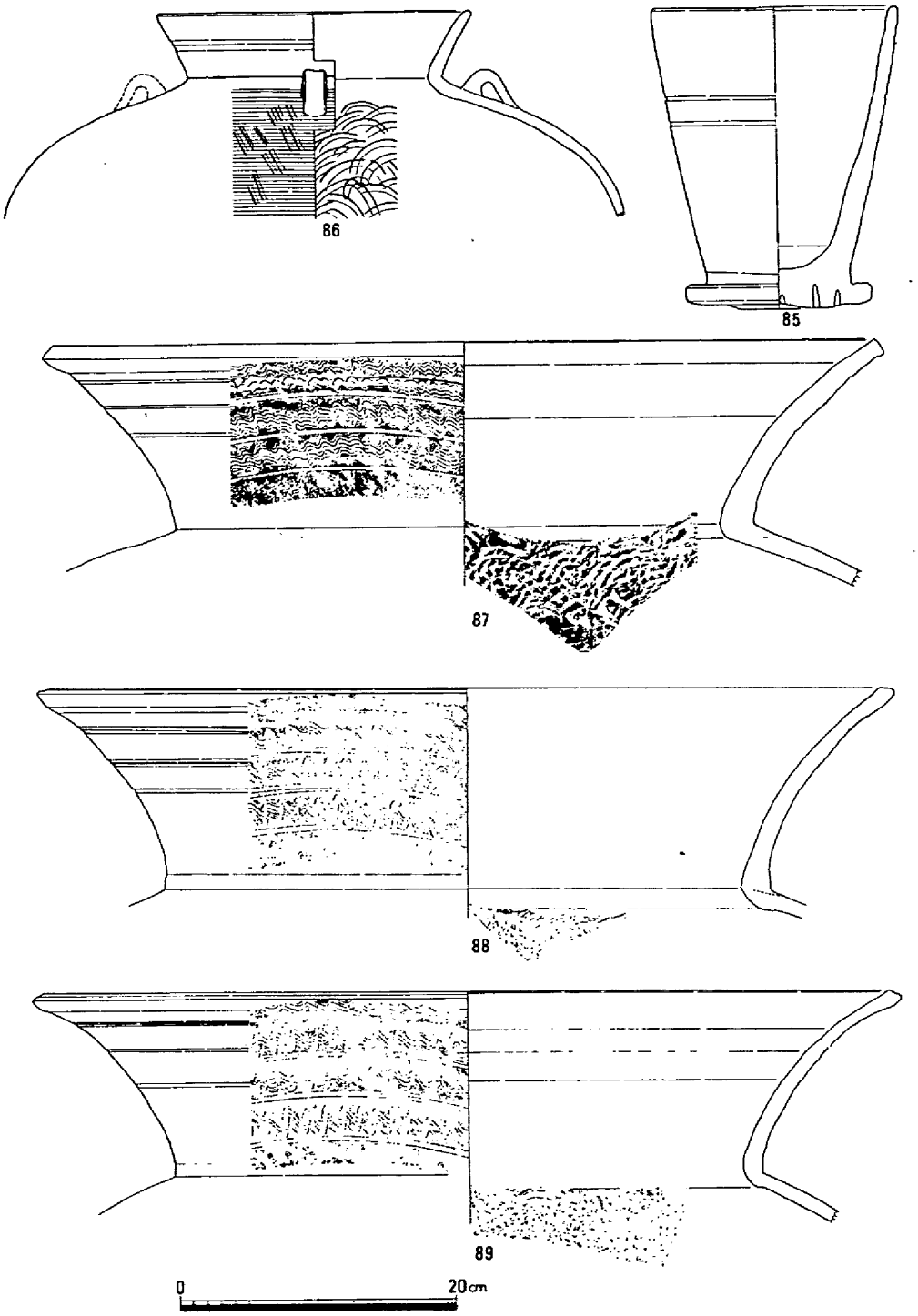
第20図　1号窯址灰原出土遺物　4



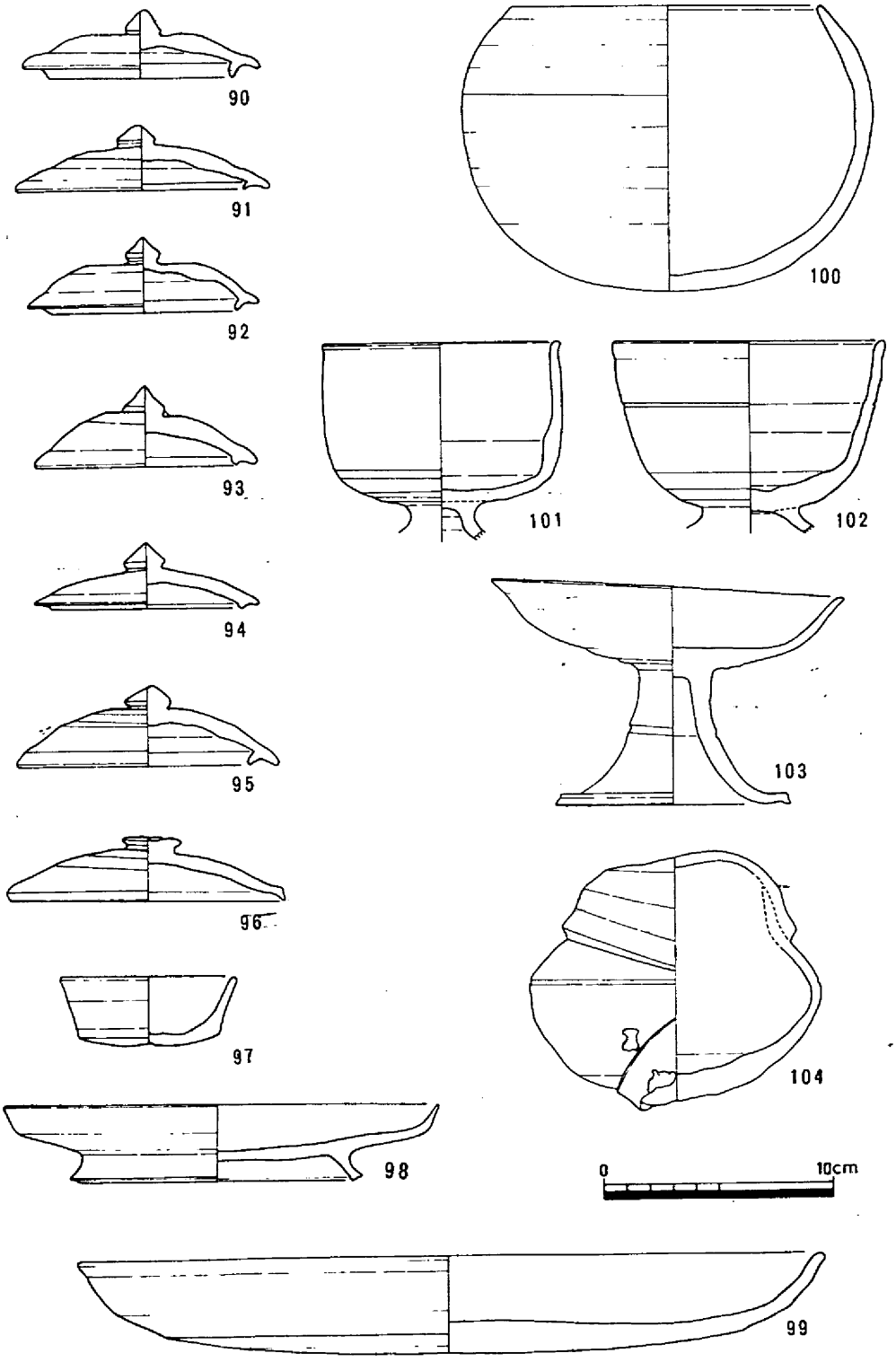
第21図　1号窯址灰原出土遺物　5



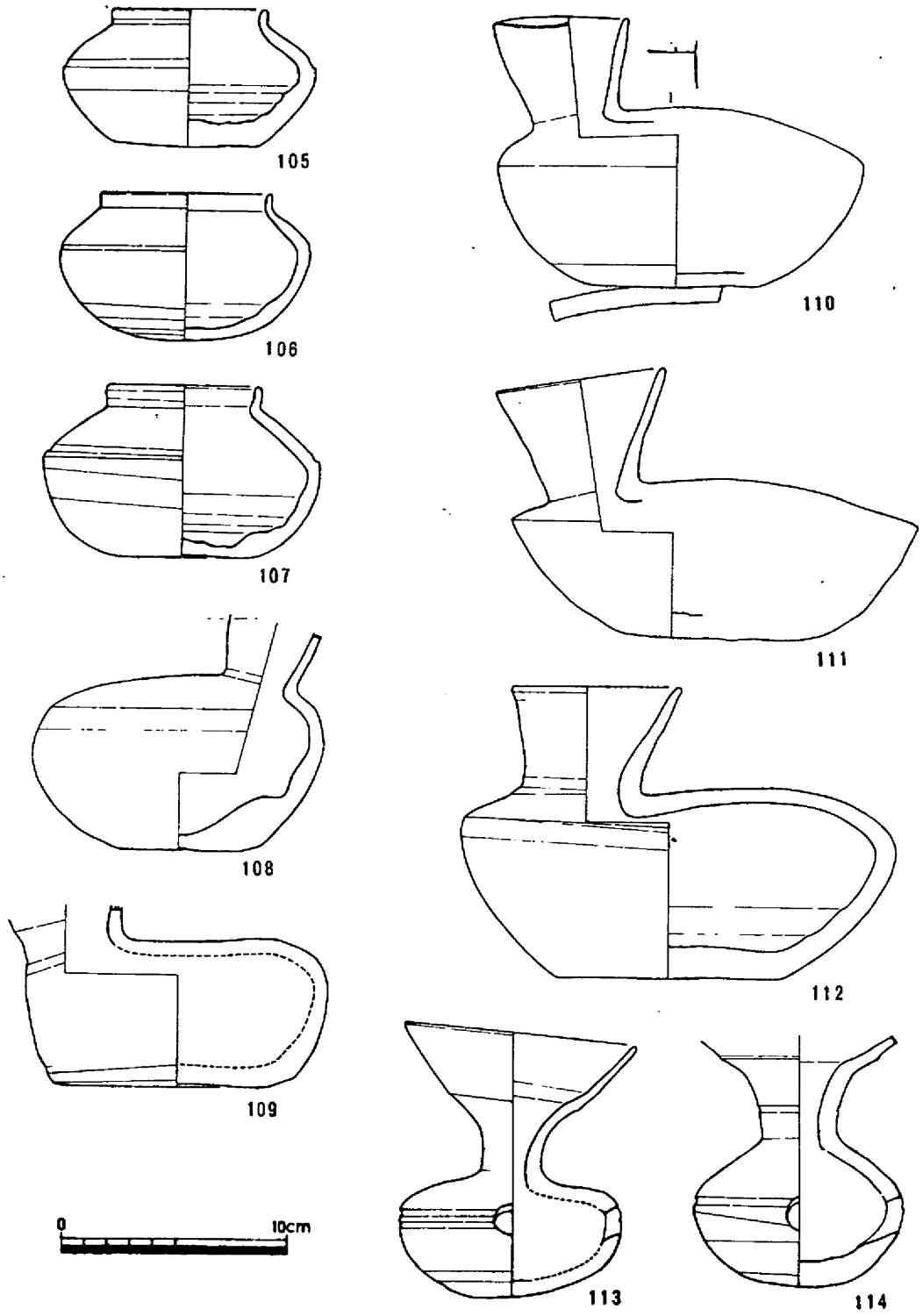
第22図　第1号窯址灰原出土遺物　6



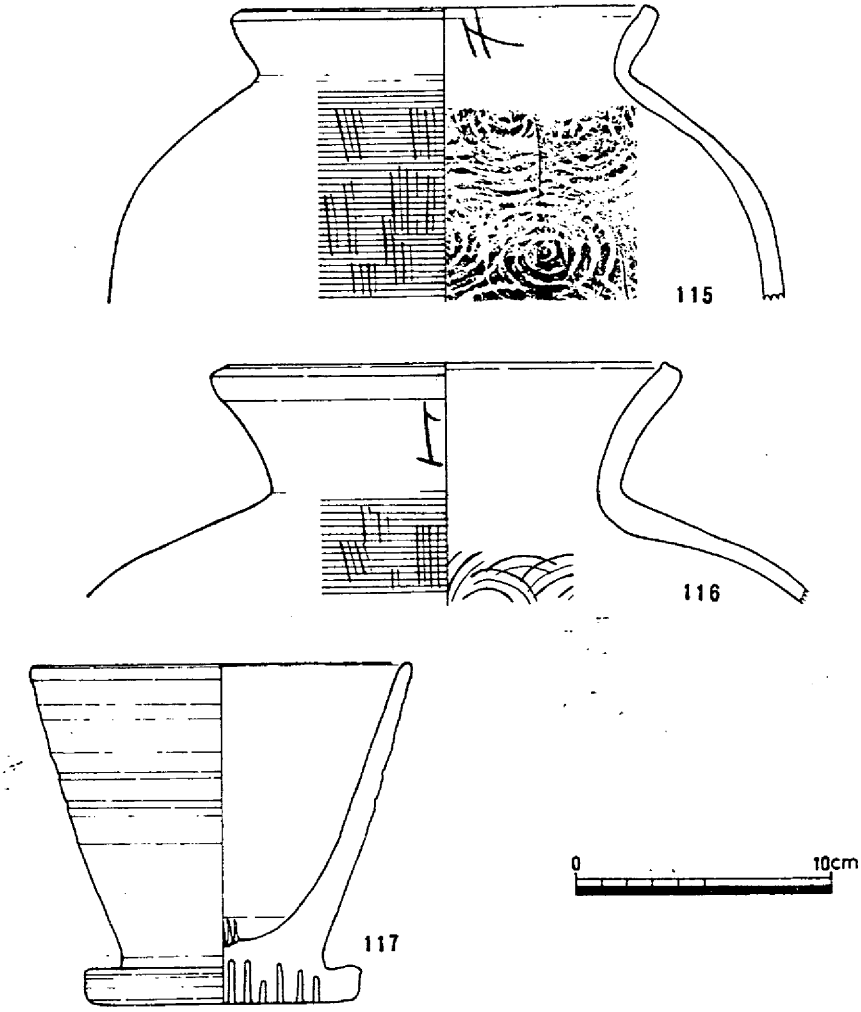
第23図　1号窯址灰原出土遺物　7



第24図　2号窯址灰原出土遺物　1



第25図　2号窯址灰原出土遺物　2



第26図　2号窯址灰原出土遺物

表6　出土遺物一覧表

U：牛窓町民俗資料館蔵　K：吉備考古館蔵

種類	図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	15－1 U	口径 12.8 器高 4.4	天井部は丸味がなく平である。 口縁部はやや内弯し，端部は丸味を持つ。	天井部ヘラ削り，他はヨコナデ。	焼成　やや軟 胎土　密 色調　灰褐色 残存　口縁一部欠損
〃	15－2 U	口径 11.5 器高 3.5	15－1と同一形態。	15－1と同一方法。	焼成　良 胎土　密 色調　灰色 残存　口縁一部欠損（ややひずみ）
〃	15－3 U	口径11.0～12.5 器高 4.1	〃	〃	焼成　良好 胎土　密 色調　淡青灰色（自然釉） 残存　完形（ひずみ）
〃	15－4 U	口径 10.8 器高 3.5	天井部は丸味がなく平である。 口縁部はやや垂直に下り端部は丸味を持つ。	〃	焼成　良好 胎土　砂粒やや大，不純物を含む 色調　灰褐色 残存　口縁部一部欠損
〃	15－5 U	口径 10.6 器高 3.2	天井部は丸味がなく平である。 口縁部はやや内傾し，端部は丸味を持つ。	天井部・付着物多く，整形不明。 他はヨコナデ。	焼成　良 胎土　やや砂粒大 色調　淡青灰色 残存　口縁部一部欠損
〃	15－6 U	口径 10.7 器高 3.6	〃	天井部・ヘラ削りか。 天井部内面・仕上ナデ 他はヨコナデのみ。	焼成　良好 胎土　不純物多く，黒点 色調　褐色 残存　口縁部$\frac{1}{2}$欠損，整形良好
〃	15－7 U	口径10.8～11.3 器高 3.8	〃	15－1と同一手法。	焼成　良 胎土　密 色調　灰白色 残存　ほぼ完形，ややひずみ
〃	15－8 U	口径 10.4 器高 3.1	〃	〃	焼成　普通 胎土　やや大きい砂粒を含む 色調　灰色～褐色 残存　口縁部一部欠損
〃	15－9 U	口径 10.3 器高 3.5	〃	〃	焼成　良 胎土　不純物を含む 色調　灰色 残存　口縁一部欠損，ややひずみ
〃	15－10 U	口径 9.7 器高 3.2	〃	〃	焼成　良 胎土　不純物を含み黒点 色調　淡青灰色～ねずみ色 残存　口縁一部欠損，整形良好
〃	15－11 U	口径 9.6 器高 3.3	〃	〃	焼成　良 胎土　密 色調　灰色 残存　口縁一部欠損，整形良

種類	図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	15－12 U	口径 10.0 器高 3.6	天井部は丸味がなく平である。 口縁部はやや内傾し，端部は丸味を持つ。	天井部不明。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 砂粒やや大、不純物を含み黒点 色調 褐色 残存 ほぼ完形、少しひずみ
〃	15－13 U	口径 8.8 受部径 7.0 器高 3.0 つまみ径 1.4 つまみ高 1.2	天井部中央に擬宝珠様のつまみを有す。 内面端部に内傾するかえりを施す。	天井部ヘラ削り。 内面中央部仕上ナデ。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 淡灰色 残存 完形
〃	15－14 U	口径 8.4 受部径 6.7 器高 2.4 つまみ径 1.1 つまみ高 0.8	〃	天井部ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好，堅緻 胎土 密 色調 赤褐色 残存 口縁一部欠損
〃	15－15 U	口径 8.8 受部径 7.3 器高 2.6 つまみ径 1.4 つまみ高 0.8	〃	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 灰白色～明灰色（外面自然釉，断面黄灰色） 残存 口縁一部欠損
〃	15－16 U	口径 10.2 受部径 8.4 器高 2.9 つまみ径 1.4 つまみ高 1.0	〃	〃	焼成 良 胎土 密 色調 褐色 残存 完形
〃	15－17 U	口径 9.5 受部径 7.6 器高 2.0	天井部は丸味がなく平である。 内面端部に内傾するかえりを施す。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 内面・断面 暗黄褐色 外面 暗灰色 残存 ほぼ完形
〃	15－18 U	口径 9.5 受部径 7.5 器高 3.0 つまみ径 1.6 つまみ高 1.2	天井部中央に擬宝珠様のつまみを有する。 内面端部に内傾するかえりを施す。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 淡青灰色 残存 口縁一部欠損
〃	15－19 U	口径 9.8 受部径 8.0 器高 3.0 つまみ径 1.7 つまみ高 1.0	〃	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色～灰白色（自然釉）断面黒褐色 残存 口縁一部欠損
〃	15－20 U	口径 9.2～9.7 受部径7.2～7.5 器高 3.1 つまみ径 1.2 つまみ高 1.3	〃	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 青灰色（自然釉） 残存 一部欠損
〃	15－21 U	口径 9.5～10.0 受部径7.4～8.2 器高 3.8 つまみ径 1.5 つまみ高 1.3	〃	〃	焼成 良好 胎土 黒色の混入物あり 色調 灰色（自然釉） 残存 完形
〃	15－22 U	口径 9.6 受部径 7.3 器高 3.5 つまみ径 1.5 つまみ高 1.2	〃 〃	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 灰白色（自然釉） 残存 口縁大きく欠損
杯蓋／身	15－23 K	蓋 口径 10.2 身 口径 9.4 身 器高 3.6	蓋 〃 身 口縁部はやや外傾して立上る。下端に沈線を施す。	蓋 〃 身 肩部ヘラオコシ他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 内面明灰色，外面白灰色断面灰褐色（自然釉） 残存 $\frac{3}{4}$，蓋と身ゆ着

種類	図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	15−24 U	口径 12.5 受部径 10.0 器高 3.6 つまみ径 2.0 つまみ高 1.3	天井部中央に擬宝珠様のつまみを有する。 内面端部に内傾するかえりを施す。	天井部ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 やや軟質 胎土 不純物を含む 色調 淡黄灰色 残存 ほぼ完形
〃	15−25 U	口径 16.0 器高 2.2 つまみ径 2.3 つまみ高 1.0	天井部中央に丸味をもつつまみを有する。 口縁端部は屈曲する。	上面自然釉のため調整不明。 他はヨコナデ。	焼成 良好，堅緻 胎土 不純物による黒点 色調 暗褐色〜赤褐色 残存 $\frac{1}{3}$ほど欠損，整形良好
〃	15−26 U	口径15.5〜15.8 器高 2.7	天井部中央に扁平なつまみを有する。 口縁端部で屈曲する。	天井部ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色 残存 口縁部一部欠損，ひずみ大
〃	15−27 U	口径 15.4 器高 2.5	〃	天井部は自然釉で不明 内面中央部は仕上ナデ 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色 残存 口縁$\frac{1}{4}$ほど欠損，少しひずみ
〃	15−28 U	口径 16.5 器高 推定 2.5	〃	天井部ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色 残存 口縁部一部欠損，ひずみ
〃	15−29 U	口径17.0〜18.1 器高 推定 2.5	〃	天井部ヘラ削り。 内面中央部は仕上ナデ 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色（一部自然釉） 残存 ほぼ完形，ひずみ大
〃	15−30 U	口径 11.0 器高 1.2	天井部中央に扁平なつまみを有する。 口縁端部は屈曲し，外反する。 端部はシャープである。	天井部自然釉で不明。 内面ヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色（上面自然釉） 残存 縁$\frac{1}{3}$欠損，整形良好
〃	16−31 U	口径 14.3 器高 3.5	天井部中央に扁平なつまみを有する。 口縁部でほぼ垂直に屈曲する。	天井部ヘラ削り。 内面中央は仕上ナデ。 他はヨコナデ。	焼成 やや軟 胎土 密 色調 淡灰褐色 残存 ほぼ完形，整形良好
〃	16−32 U	口径 15.8 器高 2.8	〃	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 乳褐色 残存 口縁部一部欠損
〃	16−33 U	口径 16.8 器高 3.2	〃	〃	焼成 良好，堅緻 胎土 密 色調 ねずみ色〜淡褐色 残存 口縁$\frac{1}{4}$欠損，整形良好
〃	16−34 U	口径 24.8 かえり径 22.4 器高 5.1 つまみ径 2.2 つまみ高 1.6	天井部中央に擬宝珠様のつまみを有する。 内面端部に内傾するかえりを施す。	〃	焼成 良好 胎土 黒色粒を含む 色調 外面灰黄褐色，内面淡褐色 残存 $\frac{1}{3}$欠損，整形良好
蓋	16−35 K	口径 31.3 器高 3.1 つまみ径 0.8	天井部中央にやや扁平な擬宝珠様のつまみを有する。	〃	焼成 普通 胎土 密 色調 灰白色 残存 $\frac{2}{3}$

種類	図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯身	16−36 U	口径 7.5 受部径 9.1 器高 2.9	立上りは内傾し,高さ2.5㎜を測る。 受部は短い。	肩部外面ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 内面明灰色（自然釉）外面茶灰色,断面黒灰色 残存 ほぼ完形
〃	16−37 U	口径 7.9〜8.4 受部径 9.6〜10.2 器高 2.7	立上りは内傾し高さ2.5㎜を測る。 受部は外上方に内弯している。	〃	焼成 やや軟 胎土 密 色調 外面乳灰色〜淡青灰色 内面乳褐色 残存 完形，ひずみ大
〃	16−38 U	口径 8.8 受部径 10.7 器高 3.3	立上りは内傾し，高さ4㎜を測る。 受部は外上方に内弯している。	底部外面ヘラ削り。 底部内面仕上ナデ。 他はヨコナデ。	焼成 普通 胎土 密 色調 乳灰色 残存 完形，整形良
〃	16−39 U	口径 8.9 受部径 10.9 器高 2.5	立上りは内傾し，高さ4㎜を測る。 受部は短い。	底部外面ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 外面青灰色，内面茶褐色 残存 完形，整形良
〃	16−40 U	口径 8.1〜8.5 受部径 10.0〜10.4 器高 3.0	立上りは内傾し，高さ3㎜を測る。 受部は短い。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 淡灰色，断面灰褐色（自然釉） 残存 完形，ひずみ大
〃	16−41 U	口径 8.6〜9.2 受部径 10.6〜11.1 器高 3.1	立上りは内傾し，高さ2㎜を測る。 受部は外上方に内弯している。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色（一部自然釉） 残存 完形，ひずみ大
〃	16−42 U	口径 9.3 受部径 9.5 器高 3.1	立上りは内傾し，4㎜を測る。 受部は外上方に内弯する	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 外面青灰色，内面灰褐色（自然釉） 残存 ややひずみ
〃	16−43 U	口径 10.3 受部径 12.1 器高 3.3	立上りは内傾し，5㎜を測る。 受部は短い。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 内面・断面暗茶灰色，外面・明灰色（自然釉） 残存 完形，ひずみ 外
〃	16−44 U	口径 9.5〜9.8 受部径 11.0〜11.4 器高 3.1	立上りは内傾し，4㎜を測る。 受部は内傾している。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 淡青灰色（自然釉） 残存 完形，ひずみ
〃	16−45 U	口径 9.4 受部径 11.1 器高 2.8	〃	〃	焼成 良 胎土 黒雲母多い 色調 外面灰色，内面灰白色 残存 $\frac{1}{2}$
〃	16−46 U	口径 9.5 受部径 11.1 器高 2.9	立上りは内傾し，3㎜を測る。 受部は短い。	〃	焼成 良 胎土 密 色調 灰色，外面自然釉 残存 完形，整形良好
〃	16−47 U	口径 9.3 受部径 11.2 器高 3.0	立上りは内傾し，4㎜を測る。 受部は外上方に向く。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 外面乳灰色，内面淡青灰色（自然釉） 残存 一部欠損

種類	図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯身	16－48 U	口径 9.1 受部径 11.0 器高 3.1	立上りは内傾しながら端部は外反し5㎜を測る。受部は外上方に向く。	底部外面ヘラ削り。他はヨコナデ。	焼成 良好，堅緻 胎土 密 色調 外面青灰色，内面赤褐色 残存 完形
〃	16－49 U	口径 9.1 受部径 10.7 器高 3.2	立上りは内傾し，5㎜を測る。受部は短い。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色 残存 完形，整形良
短頸壺蓋	16－50 U	口径 8.9 器高 2.9	肩部に浅い凹線を施す。	天井部ヘラ削り。他はヨコナデ。	焼成 良 胎土 不純物を含み，黒点あり 色調 灰色 残存 口縁½欠損，整形良
〃	16－51 U	口径 8.2～8.5 器高 3.4	〃	〃	焼成 良 胎土 密 色調 灰白色 残存 ほぼ完形，歪み
杯身	16－52 U	口径 11.5 器高 3.7	口縁部は外傾して立上る。	底部はヘラ削り。他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 内面断面灰色，外面淡黄灰色（自然釉） 残存 2つの器形がゆ着，一部欠損
〃	16－53 U	口径 14.1 器高 3.1 脚部径 10.4	口縁部は外傾し，端部は丸い。底部は扁平でハ字形に高台を付す。	〃	焼成 やや悪く軟 胎土 密 色調 灰白色 残存 口縁一部欠損，少し歪み
〃	16－54 U	口径 20.1 器高 4.5 脚部径 15.8	〃	底部はヘラ削り。底部内面は仕上ナデ。他はヨコナデ。	焼成 やや軟 胎土 密 色調 灰白色 残存 ほぼ完形，ヘラ記号「×」あり
〃	17－55 U	口径 25.0 器高 5.2 推定脚部径19.1	口縁部はやや内弯気味に外傾し，端部は丸い。底部は扁平でハ字形に高台を付す。	底部はヘラ削り。他はヨコナデ。	焼成 やや軟 胎土 密 色調 明褐色，断面黒灰色 残存 ⅓
〃	17－56 U	推定口径 26.2 器高 5.4 推定脚部径21.0	口縁部は外傾し，端部は丸い。底部は扁平でハ字形に高台を付す。	〃	焼成 やや軟 胎土 密 色調 灰白色 残存 ⅕
〃	17－57 K	推定口径 25.0 器高 5.8 推定脚部径17.6	口縁部はやや内弯気味に外傾し端部は丸い。底部は扁平でハ字形に高台を付す。	底部はヘラ削り。底部内面は仕上ナデ。他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 緻密 色調 外面乳灰色，内面淡青灰色 残存 ⅓
〃	17－58 U	口径 18.0 器高 5.5 底部径 13.7	口縁部は外傾し，端部は丸い。	底部はヘラ削り。他はヨコナデ。	焼成 軟 胎土 密 色調 外面淡赤褐色，内面・断面淡茶褐色 残存 ¾
〃	17－59 U	推定口径 14.5 器高 3.5	口縁部は外傾し，端部はやや外反している。	底部不明。他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 赤褐色～褐色(自然釉) 残存 口縁部欠損

種類	図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
皿	17－60 U	口径 19.8 器高 3.9	底部はほぼ扁平で，口縁部は外傾している。	外面底部ヘラ削り。 内面底部仕上げナデ。 他はヨコナデ。	焼成 軟 胎土 密 色調 内面淡褐色，外面・断面淡赤褐色 残存 $\frac{4}{5}$
〃	17－61 U	口径 16.3 器高 7.3	〃	〃	焼成 軟 胎土 密 色調 内外面明赤褐色，断面明褐色 残存 一部欠損
〃	17－62 U	口径 19.5 器高 5.0	天井部は扁平である。 口縁端部はかえりを持つ	天井部自然釉のため不明 天井部内面仕上げナデ 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 内面白灰色，外面青灰色，断面淡灰色 残存 $\frac{1}{3}$
〃	17－63 K	推定口径 24.4 器高 3.7	底部はほぼ扁平で，口縁部は外傾している。	外面底部ヘラ削り。 内面底部仕上げナデ。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 外面淡灰茶褐色，内面灰茶褐色 残存 $\frac{1}{2}$
〃	17－64 K	口径 27.0 器高 3.0	底部はほぼ扁平，口縁部は外傾している。	外面底部ヘラ削り。 内面底部は仕上げナデ 他はヨコナデ。	焼成 やや軟 胎土 密 色調 淡茶灰色，断面茶灰色 残存 完形
〃	17－65 K	推定口径 32.7 器高 4.2	〃	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 青灰色
高杯	18－66 U	口径 13.5 器高 9.2 脚部径 9.0 脚部高 5.4	口縁部は内弯してのび，端部は丸い。 脚部は脚端部近くで屈曲し，端部はやや鋭い。	杯部，底部外面ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 明灰色，断面淡灰色 残存 口縁一部欠損（杯部にややひずみ）
〃	18－67 U	口径 11.4 器高 7.1 脚部径 7.9 脚部高 3.5	〃	〃	焼成 普通 胎土 密 色調 灰色 残存 脚一部欠損（整形良）
〃	18－68 U	口径 12.0 器高 9.5 脚部径 9.2 脚部径 5.7	口縁部は内弯してのび，端部は丸い。 脚に一本の凹線あり，脚部は端部近くで屈曲し，端部はやや鋭い。	〃	焼成 良 胎土 密 色調 茶褐色 残存 脚一部欠損
〃	18－69 U	口径 12.0 器高 9.9 脚部径 9.7 脚部径高 5.8	口縁部は内弯してのび，端部は丸い。 脚部は端部近くで屈曲し端部はやや鋭い。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 青灰色 残存 口縁 $\frac{1}{3}$ 程欠損
平瓶	18－70 K	口径 7.6 器高 11.7 胴部径 16.8 頸部径 4.5 頸部長 5.3	口縁部は体部中央よりずらしてほぼ垂直に接合している。	体部下端ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好，堅緻 胎土 密 色調 白灰色 残存 完形
〃	18－71 U	口径 6.7 器高 15.0 胴部径 18.5 頸部径 4.5 頸部長 4.5	口縁部は体部中央よりずらし，肩に対して78度の角度に接合している。	体部中央ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 外面青灰色，内面茶褐色 残存 一部欠損

種類	図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
平瓶	18－72 U	口径 8.1 胴部径 19.0 頸部径 5.4 頸部長 6.0	口縁部は体部中央よりずらしてほぼ垂直に接合している。	体部下端ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 茶灰色（自然釉） 残存 完形
〃	18－73 K	器高 14.3 胴部径 17.3 頸部径 4.6 頸部長 5.5	〃	体部中央ヘラ削り。 他はヨコナデ。 〃	焼成 良好 胎土 密 色調 外面淡灰色，内面灰色（自然釉） 残存 口縁部欠損
長頸壺	19－74 U	胴部径 18.9 頸部径 4.4	口頸部は外傾して立上る 体部中央よりやや上方に最大径を成す。 底部は高台を付すとみられる。（欠損）	体部下半はヘラ削り。 他はヨコナデ。 高台はりつけ。	焼成 良好，堅緻 胎土 密 色調 赤褐色 残存 頸部，高台欠損
〃	19－75 U	口径 10.5 胴部径 20.8 頸部径 5.0 頸部長 12.0	口頸部は外傾し立上る。 頸部に2本の凹線を施す 体部上半は3本の凹線とその間に刺突文を施す。	ヨコナデ。 高台ハリツケ。	焼成 良好 胎土 密 色調 青灰色 残存 高台欠損
〃	19－76 K	口径 8.8 胴部径 15.2 頸部径 5.6 頸部長 10.0	口頸部は外反して立上る 頸部に1本の凹線を施す 体部上半に2本の細い沈線を施す。	体部下半ヘラ削り。 他はヨコナデ。 高台ハリツケ（欠損）	焼成 良好 胎土 密 色調 白灰色 残存 脚部欠損
〃	19－77 U	口径 9.0 器高 24.8 胴部径 15.2 頸部径 4.1 頸部長 10.7 高台径 11.2	口頸部は外傾し立上る。 頸部に2本の凹線を施す 体部上半は3本の凹線とその間に刺突文を施す。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 淡青灰色 残存 口縁，胴部一部欠損
甕	20－78 U	推定口径 17.0	口縁部はほぼ垂直に立上り端部は丸い。 肩部に把手を施す。	体部，外面，平行タタキ目の上にカキ目。 体部，内面，青海波タタキ目。	焼成 良好 胎土 密 色調 明灰色，断面灰褐色 残存 口縁部$\frac{1}{5}$
〃	20－79 U	口径 19.5	口縁部はく字形に外傾して立上り，端部は凹面を持つ。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色，断面暗灰色 残存 口縁部のみ（ヘラ記号「N」あり）
〃	20－80 U	口径 26.5	〃	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 灰白色，断面暗灰色 残存 口縁部のみ
瓶	20－81 K	胴部径 9.5 頸部径 2.5	頸部に一本の沈線。 体部最大径に一本の沈線と円孔を穿つ。	体部下半ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰白色（自然釉） 残存 口縁部欠損
〃	20－82 K	推定口径 11.0 器高 10.8 胴部径 8.2 頸部径 2.7	口縁部は大きく外上方に開き端部は丸い。 体部最大径に浅い凹線を1～2条施す。 円孔はやや突出している	〃	焼成 良 胎土 密 色調 灰～灰白色 残存 口縁部欠損
〃	20－83 K	胴部径 8.5 頸部径 3.5 高台径 5.6	頸に一本の沈線。 体部最大径に一本の沈線と円孔を穿つ。 高台を付す。	体部下半ヘラ削り。 他はヨコナデ。 高台を付す。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰白色（自然釉） 残存 口縁部欠損

種類	図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
短頸壺	20－84 K	口径 7.0 器高 9.1 胴部径 13.5	口縁部は直立し，端部は丸い。	体部下半ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰白色 残存 口縁部$\frac{1}{2}$
鉢	21－85 U	口径 18.0 器高 21.7 底径 13.5	口縁部はやや外傾して，立上り端部は丸い。	底部内面は仕上げナデ 他はヨコナデ。 底面に計23個の孔	焼成 良好 胎土 密 色調 外面灰白色，内面暗灰白，断面茶灰色 残存 $\frac{1}{2}$
甕	21－86 U	推定口径 22.7 推定基部径18.5	口縁部はく字形に外反し端部は丸い。 口縁部に2本の沈線を施す。 肩部に把手を持つ。	体部外面は，平行タタキの上にカキ目。 体部内面，青海波タタキ。	焼成 良好 胎土 密 色調 内面・断面茶灰色，外面明灰色 残存 $\frac{1}{4}$
〃	21－87 U	口径 61.5 基部径 42.5	口縁部はく字形に外反し端部は外傾する平面を成す。 口縁部外面は3本の沈線と3ヶ所波状文を施す。	体部外面，平行タタキ 体部内面，青海波タタキ	焼成 良好 胎土 密 色調 黒褐色～赤褐色，断面暗赤褐色 残存 口縁部のみ
〃	21－88 U	口径 62.5 基部径 44.4	〃	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 暗灰色，断面灰色 残存 口縁部$\frac{1}{8}$
〃	21－89 U	口径 63.5 基部径 43.0	〃	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 暗灰色，断面赤褐色～暗灰色 残存 $\frac{1}{6}$
杯蓋	22－90 K	かえり径 8.3 口径 10.4 器高 2.9 つまみ径 1.5 つまみ高 1.0	天井部中央に擬宝珠様のつまみを有する。 内面端部に内傾するかえりを施す。	内外面ともヨコナデ。	焼成 普通 胎土 砂粒を含む 色調 外面乳灰色，内面乳褐色 残存 口縁部一部欠損
〃	22－91 K	かえり径9～9.5 口径11.0～11.5 器高 2.9 つまみ径 1.6 つまみ高 0.9	〃	内外面ヨコナデ。 内面中央部仕上ナデ。	焼成 良好，堅緻 胎土 密 色調 濃灰色～青灰色，外面自然釉 残存 完形，歪み
〃	22－92 K	かえり径 8.3 口径 10.3 器高 3.2 つまみ径 1.5 つまみ高 1.2	〃	天井部外面ヘラ削り。 他は内外面ともヨコナデ。	焼成 良 胎土 密 色調 外面灰色，内面灰白色 残存 完形
〃	22－93 K	かえり径7.4～8.5 口径 9.8～10.3 器高 3.5 つまみ径 1.6 つまみ高 1.2	〃	天井部ヘラ削り。 他は内外面ともヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 内面灰色，外面自然釉 残存 焼けひずみ
〃	22－94 K	かえり径 8.4 口径 10.0 器高 2.9 つまみ径 1.8 つまみ高 1.1	〃	内外面ともヨコナデ。 天井部不明。	焼成 良 胎土 やや粗 色調 外面灰色，内面灰白色 残存 完形
〃	22－95 K	かえり径 9.0 口径 11.5 器高 3.5 つまみ径 2.0 つまみ高 1.0	〃	外面，口縁端部を除きヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 良 色調 外面灰色，内面灰白色（外面自然釉） 残存 完形

種類	図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	22－96 K	口径11.9～12.4 器高 2.7 つまみ径 2.6 つまみ高 0.7	天井部中央に扁平なつまみを有する。 口縁部との境で屈曲する	外面天井部ヘラ削り。 他は内外面ともヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色（外面自然釉） 残存 完形，焼けひずみ
〃	22－97 K	口径 7.6 器高 3.0	口縁端部は丸味を持つ。	天井部凹凸が激しい。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色 残存 完成，体部一部欠損
盤	22－98 K	推定口径 19.2 器高 3.3 底部径 12.8	口縁部は短く，外傾して立上る。 高台はやや内傾している	底部はヘラ削り。 他はヨコナデ。 高台はりつけ。	焼成 良 胎土 密 色調 灰色 残存 口縁部½欠損
皿	22－99 K	推定口径 32.6 器高 4.3	ゆるやかに内反して立上り，端部は丸味を持つ。 底部，平底。	底部ヘラ削り。 端部ヨコナデ。 内面仕上げナデ。 他はヨコナデ。	焼成 やや軟 胎土 密 色調 淡灰色 残存 ½
無頸壺	22－100 K	推定口径 11.3 推定器高 12.4	なめらかで球形を呈し，口縁端部は丸味を持つ。	外面下半ヘラ削り，内面・底部仕上げナデ。 他は内外面ともヨコナデ。	焼成 やや軟 胎土 密 色調 灰白色 残存 ½
台付椀	22－101 K	口径10.3～13.5 椀部器高 7.5	椀部は内弯して立上り，端部でやや外反する。	台部分はりつけ。 椀部下端ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 外面灰色（部分的に自然釉）内面暗灰色 残存 椀部のみ，焼けひずみ
〃	22－102 K	口径 11.9 椀部器高 7.3	椀部は内弯して立上る。	〃	焼成 良好，堅緻 胎土 良 色調 淡灰色 残存 椀部のみ
高杯	23－103 K	口径14.2～14.6 器高 9.5 脚径 10.2 脚高 6.0	杯部は大きく開いて立上る。 脚部はゆるく開き，中央に凹線を施す。	内外面ともヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 暗灰色～淡青灰色（自然釉） 残存 口縁一部欠損
短頸壺蓋セット	23－104 K	推定最大径12.6	体部に一本の凹線を施す。	外面ヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色（自然釉） 残存 蓋身ともほぼ完形（付着）
短頸壺	23－105 K	推定口径 6.8 最大径 11.2 器高 6.2	口縁部は垂直に立上り，端部は丸味を持つ。 肩部に凹線を施す。 底部，平底。	体部下半ヘラ削り。	焼成 良好 胎土 密 色調 淡青灰色 残存 口縁½欠損
〃	23－106 K	口径 6.3～ 7.7 最大径 11.2 器高 6.6	口縁部は垂直に立上り，端部に丸味を持つ。 肩部（体部最大径）に凹線を施す。	底部ヘラ削り。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰白色（外面自然釉） 残存 ほぼ完形
〃	23－107 K	推定口径 6.8 最大径 12.4 器高 7.6	口縁部はほぼ垂直に立上り，端部はやや内傾する。 肩部に凹線を施す。	体部より肩部にかけてヘラ削り。 他の内外面はヨコナデ	焼成 良好 胎土 密 色調 灰白色（外面自然釉） 残存 口縁一部欠損

種類	図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
平瓶	23－108 K	体部高 7.9 体部径 13.0 頸部径 3.3	口頸部は体部中央よりずらし，肩に対し75度の角度で接合している。 底部，扁平。	ヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 明灰色（外面自然釉） 断面灰色 残存 口頸部欠損
〃	23－109 K	体部高 6.5 体部径 13.5 頸部径 4.4	口頸部は体部中央よりずらし，肩に対し84度の角度で接合している。 底部，扁平。	体部外面の下端ヘラ削り。 他はヨコナデ。	焼成 普通 胎土 密 色調 灰色 残存 口頸部欠損
〃	23－110 K	口径 6.1 器高 12.1 体部径 16.5 頸部径 4.0 頸部長 4.2	口頸部は体部中央よりずらし，肩に対しほぼ垂直に接合している。 底部，扁平。	〃	焼成 良 胎土 密 色調 灰～青灰色(一部自然釉) 残存 口頸部ひずみ小，体部上面にヘラ記号（上）あり，底部に甕片付着
〃	23－111 U	口径 7.7 器高 12.1 体部径 18.4 頸部径 4.2 頸部長 5.1	口頸部は体部中央よりずらし，肩に対し82度の角度で接合している。 底部，扁平。	口頸部内外面はヨコナデ。 体部外面はナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰白色 残存 口頸部一部欠損
〃	23－112 K	口径 7.7 器高 13.0 体部径 19.7 頸部径 5.3 頸部長 4.7	口頸部は体部中央よりずらし，肩に対しほぼ垂直に接合している。 底部，扁平。	体部上面の開口部は円板でふさいだ後をきれいに仕上げている。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色 残存 体部及び口頸部欠損
碗	23－113 K	口径 10.5 器高 11.8 体部径 9.9 頸径 2.6	口縁部は外反し，端部は丸味を持つ。体部中央に径1.5cmの円孔を穿ち丸底である。体部は外面に二本の沈線を施す。	底部外面ヘラ削[1]。 他はヨコナデ。	焼成 良好 胎土 密 色調 灰色（自然釉） 残存 口縁部一部欠損（口縁部傾斜）
〃	23－114 K	残存高 11.3 体部径 9.5 頸部 3.4	口縁部は外反している。 体部中央に径 1.4 cmの円孔を穿ち丸底である。 体部の頸部外面に一本の沈線を施す。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 明灰色（自然釉） 残存 口縁部欠損
甕	24－115 K	推定口径 16.7	口縁部は外傾している。	体部外面は平行タタキの上にカキ目。 体部内面は同心円タタキ。	焼成 良好 胎土 密 色調 明灰色（自然釉） 断面暗灰色 残存 約$\frac{1}{4}$，やや歪み。外面にヘラ記号（ト）あり
〃	24－116 K	推定口径 18.5	口縁部は外反し，端部はやや内傾。	〃	焼成 良好 胎土 密 色調 白灰色（断面赤灰色） 自然釉 残存 $\frac{1}{2}$，外面にヘラ記号（上）あり
鉢	24－117 U	口径 15.0 器高 13.2 底径 10.7	体部は外傾し，体部に2本の沈線を施す。 底部は，横に短く張出し底面に径2～3mmの円孔を穿っている。	内面の底部は仕上げナデ。 底部ハリツケ。	焼成 良好 胎土 密，黒色粒の熔出 色調 外面暗灰色（自然釉） 内面灰色 残存 約$\frac{1}{2}$

まとめにかえて

寒風古窯址群の今回の調査は先学の数十年にわたる調査研究に導かれて，国指定史跡への申請資料を確保するため，マグネットメーターを使用した磁気探査方法とトレンチによる発掘調査とを兼併せて行い，窯址ならびに関連遺構の把握につとめた。

先ず，トレンチ調査に先がけて行った磁気探査では1～3号窯址地点全面をもうらする調査方法を取り4基の窯址の確認を行い，さらに各々の窯址の位置，方向，規模等を明らかにすることができた。この調査では発掘調査を行うことなく灰原と窯址本体が直結した遺構としてとらえられ，また，窯址群の立地状況等もより明確になった。

また，続いて行った1号窯址地点のトレンチ調査では，1，2号窯址の良好な残存状況等がとらえられ，また，磁気探査の精度の高さを実証することができた。さらに灰原に設定したトレンチでは灰原の堆積層の確認ができ，出土須恵器から窯址の操業時期の推察が可能となった。

1～2号窯址地点の間のトレンチ調査では4基の竪穴遺構と2本の溝状遺構等を検出した。これらの遺構は1基の竪穴遺構を除き，窯址と時期的にほぼ同一の遺構と断定でき，より関連の強い遺構としてとらえられる。特に竪穴遺構1からは粘土塊の出土等があり，工房址の可能性も考えられる遺構である。

寒風古窯址群の操業年代はすでに時実氏による採集品からある程度の推察は可能となっており，また西川氏による須恵器の編年作業から寒風1式（飛鳥時代），寒風3式（白鳳時代）の型式設定が行われている。

今回の磁気探査の追認と窯址の保存状況等の確認のため行った第1号窯址地点のトレンチ調査から，二基の窯址の具体的な操業年代が判明した。特に1－Ⅱ号窯址下方の灰原に設定したトレンチからは，今回分類を行ったA，B類の須恵器を検出し，また，以前にこの灰原から多量に採集されているC類は1－Ⅰ号窯址に伴うものであることが確認され，1－Ⅱ→1－Ⅰ号窯址の操業年代順が判明した。さらにこのトレンチからは亀ケ原1式に包括されるA類の須恵器を検出しており，寒風古窯址群が古墳時代末から白鳳時代にわたり操業されたことも明確になった。

この様に今回の調査は，吉備古窯址群中の最も著名な古窯址の一つに掲げられ，また吉備における須恵器研究の中核ともなった寒風古窯址群の面的な広がり，ならびに遺構の良好な残存状況が判明し，操業時期等もある程度具体的になった。さらに竪穴遺構の検出により，関連した施設の存在も明確になった。

窯業遺跡は窯址，灰原，工房址，粘土採掘址等の各々の遺構がそれぞれ有機的関連を持ち，かつ面的な広がりを持って存在し，さらに各々の窯址の操業年代から立体的にとらえられるべき遺跡群である。寒風古窯址群の今回の調査においても窯址及びそれに関連した遺構群が具体的に検出され，操業期間の推察も可能となった。今後，これらの遺構の完全保存が残された重要な課題であり，充分に意をつくした保存行政指導が行われることを望みたい。

図　　版

寒風古窯址群周辺航空写真

(1) 窯址群遠景　南西から

(2) 窯址群遠景　西から

(1)　1号窯址遠景　　西から

(2)　トレンチ調査区遠景　　南西から

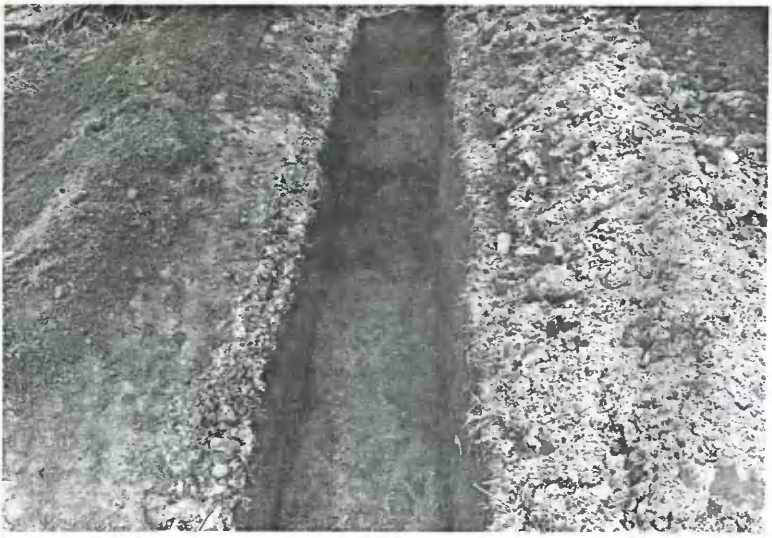
(1)　3 号窯址全景

南から

(2)　3 号窯址遠景　　南から

(1) 第1・2トレンチ全景　北から

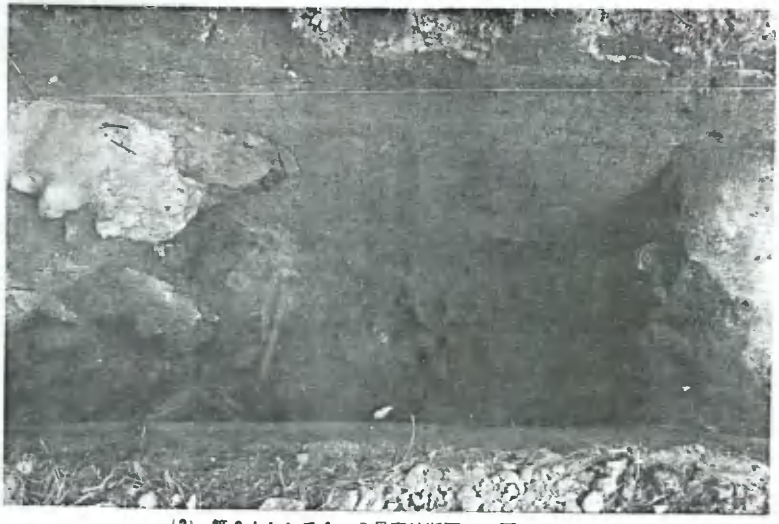
(2) 第1トレンチ溝状遺構上面遺物出土状況　北から



(1)　第13トレンチ I－I号窯址　　南から

(2)　第13トレンチ・I－I号窯址断面　西から

(1) 第 2 トレンチ 1 － Ⅱ 号窯址全景　　南から



(2) 第 2 トレンチ 1 － Ⅱ 号窯址断面　　西から

(1) 第 3 トレンチ全景

南から

(2) 第 3 トレンチ灰原土層断面　　南西から

(1) 第 4 トレンチ竪穴遺構 1 全景　南から

(2) 第 4 トレンチ竪穴遺構床面出土粘土塊　西から

(1) 第 4 トレンチ竪穴遺構 2

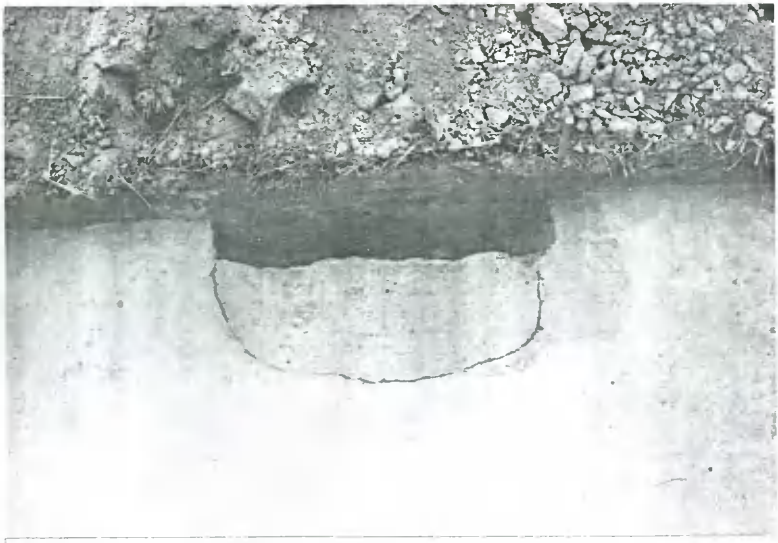
溝状遺構 1　　北から

2) 第 4 トレンチ全景

（手前竪穴遺構 3 ）

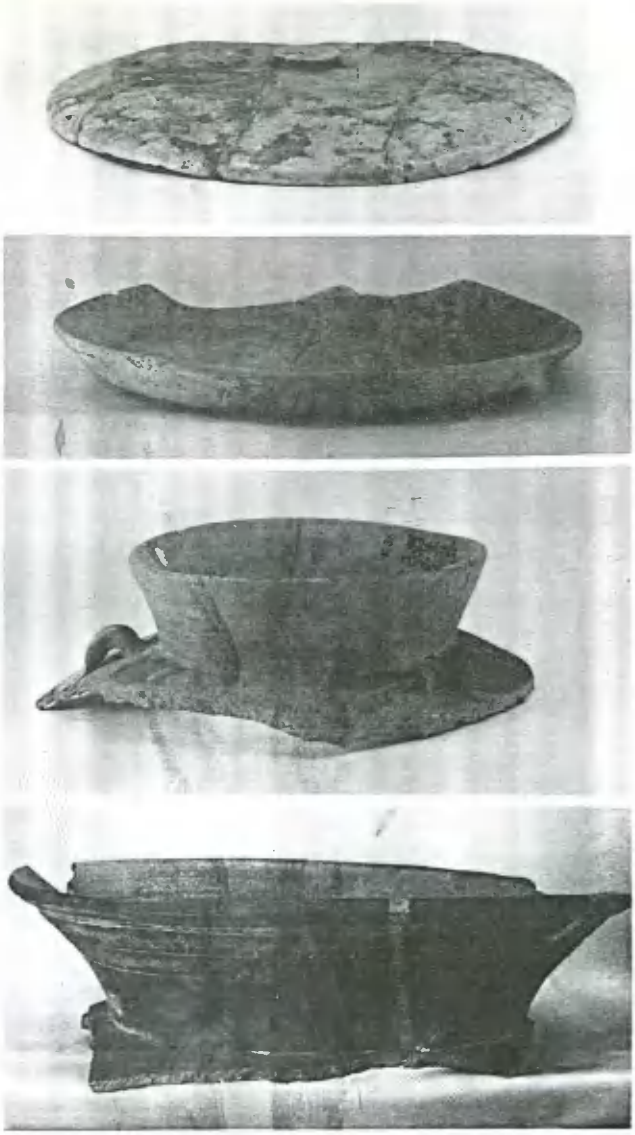
北から

(1) 第 4 トレンチ竪穴遺構 3 ・溝状遺構 2　　南から

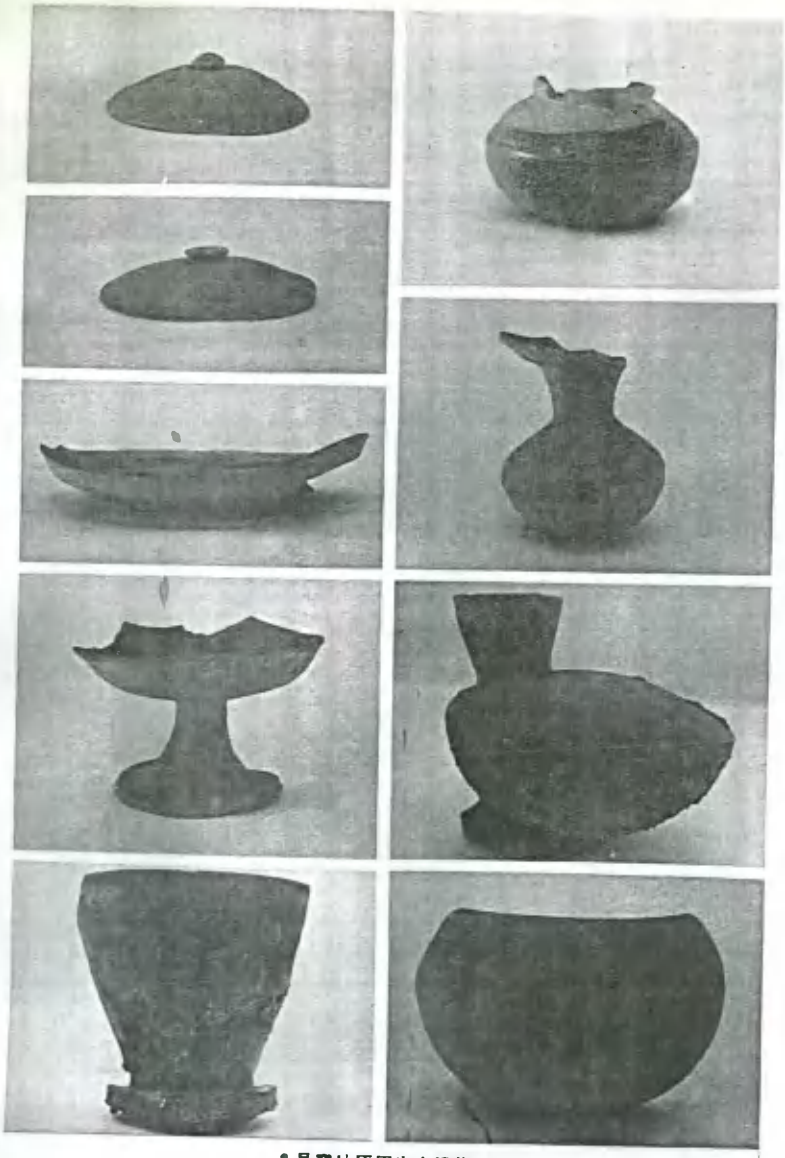


(2) 第 4 トレンチ竪穴遺構 4　　西から

1 号窯址灰原出土遺物（1）



1号窯址灰原出土遺物 (2)



2 号窯址灰原出土遺物